

昭和三十三年三月十八日招集
第一回市議會定例会々議錄

昭和三十三年館山市議会才一回定例会会議録(才四日)

昭和三十三年三月十八日午前十時館山市議会才一回定例会才四日
館山市役所分館會議室に招集

一出席議員(三十二名)

一番	石井 潔	二番	高橋文治
三番	伊勢仙之助	四番	小浜光義
五番	後藤ゆき	六番	秋山万次
八番	金木久一	九番	安西政治
一〇番	田中禄郎	一一番	脇田順一
一二番	吉田勇治郎	一三番	小沢太助
一四番	中村良五	一五番	小谷無違
一六番	田村茂兵衛	一七番	嶋貫壮作
一八番	佐久間為次郎	一九番	黒川佐太郎
二〇番	山口房治	二一番	萩生田七郎

二三番 福岡保徳 二四番 山本昇

二五番 松本藏太郎 二六番 可世木芳蔵

二七番 鈴木孝 二九番 遠山ヨネ子

三〇番 磯辺周雄 三一番 大野清五郎

三二番 望月暉作 三三番 田中忍蔵

三四番 飯田義雄 三五番 嶋田繁

一 欠席議員(三名)

七番 鈴木市蔵 二二番 小沢恵太郎

二六番 山口康

一 法才二百三十一條による出席説明員

市長 田村利男

助役 小出武男

収入役代理 眞田森吉

総務課長 完戸貴

保險課長

唐沢貞太郎

商工水産課長

羽山房雄

送管書記長

渡辺 茂

建設課長

新井重助

農産統計課長

吉田耕一

秘書課長

山谷珣昶

福祉事務所長

長谷川広治

厚生課長

神作廣太郎

戸籍課長

高木哲三

税務才一課長

山口 実

税務才二課長

伊藤幸太郎

診療所事務長

池田亮山

消防署長

安藤亀吉

警務員会教育長

工藤和平

警務局長

鶴沢貫覚

監査委員

関 武天

一本議会の事務局長、書記および職員

事務局長

高梨清一

書記

太田博雄

職員

畑中弘敬

同

山口晴之

昭和三十三年、館山市議会が一回定例会議事日程（才四号）

昭和三十三年三月十八日午前十時開議

日程才一議案才二〇号乃至才二二号 質疑応答

一本日の会議に付した事件

日程才一議案才二〇号乃至才二二号 質疑応答

議長（石井潔君）本日の上席議員数二十八名、これより才一回定例

会才四日の会議を開会いたします。

○議長(石井潔君)本日の議事はお手許に配布の日程表によつて行います。

議事に先立ちまして当局よりオニ十号議案に誤字脱字がありますのでこれを訂正いたしたいという甲出がありましてたので説明をいたさせていただきます。

○総務課長(兒戸貴君)はなはだ甲わけございませんがニ十号議案の四十四ページ四十九ページ一番はじめのグラフのところ
に誤謬脱漏がございますので御訂正をお願いします。

まず四十四ページをお聞きねがいたいと思います。一番上の交際費というところの付記の横でございますがここに市長交際費と書くべきのが落ちましたので御記入をねがいたいと思います。

つゞは四十九ページの五から三番目の欄に十節交際費と
いう付記の欄に市長交際費となっておりますがこゝは市
の交際費の違いでございしますので市長の長の字をお消
しになつていただきたいと思います。

一番はじめの予算構成グラフというのがありますがこの
文入文出というまん中の丸い欄がありますがこの数字を
二億五千九百三十一万九千七百五十円と訂正をお願いします。
文入も文出も同じ数字でございします。

議長(石井潔君) 日程オー議案オ三十号ないー三十三号を一括議
題といたします。

審議の方法についてお諾りいたします。

ただいま議題となりました三議案を三分一てまず
二十号の一般会計予算を文入と文出にわけ特別会計

のオニエ号オニエ号を一括してまずオニエ号議案の
支出の方よりこれを議したうかどうかと思ひますが
御異議ございませんか。

(「異議ナ」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議ナと認めます。

よって決定いたしました。

なお御発言のありページをお示さるようになくにおね
がい申し上げます。

○七番(嶋貫壮作君)ただいま御訂正になりますた交際費が
訂正されない前は妙な感じに襲われたんですが交際費
について少くお尋ねしてみたいと思つております

毎年そうであります。算定する資料がありません。そ
こでことゝは市長さんも四年間の任期がひとまず切
れるわけでありすからその意味からいってもしも少

―明瞭にしておく必要があろうと思ひますのでつぎのことをお尋ねします。

オ一点は市長があつたてゐるものかどうかということそれとも市長の属僚のうちで手分して扱つてゐるものであるか。

それからこゝらを検討するに足る資料の御提呈をねがいたい。こう考えます。例えて申し上げますならば昭和二十三年度はこういうふうに使つたというんでも構いません。昭和三十三年度にはこういつて使うんだといったような参考資料をおねがいしたいと思つております。この二点についてお伺ひします。

。助役(山本武男君) 嶋貫議員にお答えいたします。

御指摘の通り交際費が三本立になっております、そのうち市長交際費とその他と私どもは考えてゐるんでござ

でございますがその性格と申しますと一様に市長として市の振興のために使う費用であることについては御意見の通りでございます。ただ經理の面におきまして市長交際費はもっぱら市長が市の振興のために独自の采配によって使えるもので市の交際費の方はそれに類するものでございますが市長の独自のものというよりは一般經理の例に準じます。そしてそれ正當責任者、債務者に書類をもつて支払する方法をとらなければならぬ。ない支出經理にしておるわけでございます。

市長交際費その他の經理の計画と申しますかそれに就いての御質問でございますが内容につきましてには、外の限りではございませんが一応参考に申し上げますと交際費の支出についてはいろいろな方法をとつてある例がございますが当市におきましては月別に支出の額

を基準において計画を秘書課において取扱かつてあります。市長交際費以外の交際費はそのつど市に對してと申しますか、市がやはり市政振興のために必要な外部の人たちの接待とか、そういう市の振興のための費用に、これぞ伺いを立てまして書類をもって支払いをしております。こういう形態でやっております。

○二七番(嶋貫壮作君)オ一点はわかりました。オ二点に關しましてもうすこしお尋ねいたします。

目別にやっておいでになるとすれば、計画をお立てになるはずでございます。その計画をお示しねがいたい。市長交際費であるからには内容の発表はなくてもいいんだというふうなことがよくいわれておりますが、もちろん私もそれを否定するものではありませんが、予算案として提出されたものについて、われわれは発言力を

持ってあると思います。その意見でお尋ねするのであります。が月別にやっておいでになるとすれば計画が立たなければならぬ。こう思いますのでその計画を御発表ねがいたい。

○助役(小出武男君)月別と申しますのは計画ではないんで要するに市長は一年間任期が継続しますので差支えないんです。が途中で当事者が代るような場合を予想しまして前半、後半、四半期というふうな考え方なんでしょう。いまして前任者が大部分を使って後任者に引継ぐときにないという場合が間々あるんでございしますが、こういうことを予防するために大体月割というものを基準に考へるんであります。月はいくらという額はもちろん立ちません。と申しますのはその時々によりまして内容が違いますのでただある月にまとまって使っちゃうということを選

けるという考え方で月別ということをお申上げたんでその月にくらいくらということをお申上げたんではないのでございませう。その点を……。

○七番(嶋貫壮作君)その点はわかりました。が予算である以上無計画なものをおおむねになるとは考えられないんであります。少なくとも庁用交際費とかそういうものについては内容を内容を発表して下すっても差支えないと考えております。その意味で申上げるのであります。がひとつ交際費に計画性をもたせるという意味でぜひ御発表ねがいたいと思ひます。当局から御発表がないようでありますから、監査委員の関さんにおたずねしたいと思ひております。が前年度の発表して差支えないものをおおむねがいたします。

それから市長交際費で発表のできないというものについて、は種々議論があると思ひますが、これは後回しに――

まゝでも発表できるものがあるはずです。それを中心と
つ発表していただきたいと思います。

○監査委員(関武男君)市長交際費につきまゝでは市長独自の
便い途がございますかと思ひますのでその点につきまゝ
では監査委員としても一応発表を差控うべきと考えてお
ります。が市交際費とか市振興交際費ということにつきまゝ
では正当債務者の領收書もございまゝてそれによつて支出
されておりますので発表しても差支えないと思ひつてあり
ます。支出簿を取寄せそれをみまゝであとで答えたい
— たいと思ひますが御了承がいたいと思ひます。(「承
— まゝ」と呼ぶ者あり)

○三番(伊勢仙之助君)交際費の償向がまゝだが市長交際費は
印刷違ひなんですか前年度の市長交際費が七十万で今年
度は四丁万とあります。がなにか変えた意図があります

か。(直したんだと呼ぶ者あり)わかりました。

○三四番(飯田義男君)市出の教育費の需用費が大体二割増額になっておりますがこの需用費の増額は非常に結構なことですがそれでもまだ需用費が満足でないということは各学校で同じく考えているだろうと思います。すがここで問題になるのはP.T.A.会費が各学校とも非常に増嵩して最近ではP.T.A.会費も納入に困難な父兄も相当にあり世論はこのP.T.A.会費を減額せよという声があるんですが需用費がだんだんふえてくるに従ってP.T.A.の会費をどのように減額していく意思があるか。こういう問題についてまず教育長さんにお伺いいたします。

もうひとつ百三十七ページに市庁舎積立金として一千万円計上してございます。市庁舎が飯山市の場合は非常に

老巧になつておりましてこれを早急に立てなければいけないということはおわかりつております。――かゝるから市庁舎というものは館山市の心臓でもある――市民が直接いろいろな用事を足しにくる窓口でもあります。従つて市民に直結したものともし大事な庁舎でございますのでこの建設に当りましては市民の世論を徴してより立派に――かも早急に建てるということに考えて行かなければならぬと思ひます。

そこで市長は庁舎建設について市民一般の世論をとつていつ建てようか規模の点ではどのようなにつくつたらいいか、あるいは設計等におきましても市民のなかに広く募集してみることでもいいだろうと思ひますがこれらのごことを市長は将来やつて行く意思があるかないか、この二点をお伺ひいたします。

○教育長(工藤和平君)飯田議員のオ一点にお答えいたします。

P、T、Aの負担軽減という問題は全国的な問題でございますのでゆいゆいといたーまーてもできるだけこいを軽減したい。かような気持ちのもとに昨年度と本年度の需用費に加えてさらに飛躍的に二割だけ増額をおねがいしたいわけでございます。従いましてこの分だけでも各地区のP、T、Aにおいて負担を軽減させたい。こういう熱望を持っております。

○市長(田村利男君)市庁舎問題でございますが市庁舎建設ということはあくまで重大なことでありまして、いかも慎重に取扱いなければいけません。いたずらにぼう大な市庁舎を建てることによって市民の福祉を阻害してなりません。――釧路市の体面を損うことともなりませんので慎重に考慮して行きたいと思ひます。そこで市庁舎建設

の資金というようなことでございますが去年から積立てましたのがニ千万市といたりましてはニヶ年計画くらいたもってなるべく早く建設に着工したいとこういう意図をもっているわけでございます。設計あるいは建築等につきましては広く知恵を集めまして万全なものを作りたいとこのように考えております。

○三四番(飯田義男君) 教育長さんにもうひとつお伺いします。PTA会費をだんだん減らす意味で二割を増額したという御意見でございますがどうしますとP.T.Aの会費を減らすことに対してこのように努力するという計画はまだ持っておりませんか。

○教育長(工藤和平君) 校長会議あるいはP.T.Aの会合というものが随時でございますのでその際にまずもって私どもの意向を伝えたい。こういう考えでございます。

○三番(伊勢仙之助君)二点御質問申上げます。

まずオ一点に市の旅費であります。その中に特別建設準備委員の視察旅費として七万円を計上するといふうに議案説明がありましてたんですが建設特別準備委員に旅費まで使わせて視察させるという極限まで準備委員におありかどうか、現在土地その他もまだ決定してありません。また準備委員会そのものの会合の内容というものも全然聞かれておりません。こういうような中にある、て果してこの予算を計上するのが適当であるかどうかという点に非常に疑問を持たれております。市の庁舎の建設委員会ならまだいいがまだ準備委員の段階にあってこういう視察旅費まで計上するという考え方について、はつきりしていた

だまませんと納得ができないわけでありまして準備委員の性格と七万月計上した根拠について御説明ねがいたいと思います。

もう一点は教育長さんにお尋ねしますが、今年度の教育予算が非常に少ないという点についていろいろ非常に関心を寄せておるんですがこの予算編成について市内の各中高等学校これらの人たちの代表者といえますか、P、T、A、などの意見というものはどのように掌握されましたか、そういう会合を持たれて学校の意見、P、T、A、の意見というものをどういふふうにお聞きになりましたか、その点を御説明ねがいたいと思います。

。市長(田村利男君)旅費七万円の問題ですが市庁舎の建設準備委員として議長を加えて九人の方におねがいしたわけ

けでございしますが、當時は確か協議会の席上ではあつた
 と思ひますが、大体土地買収についての相談に預かるも
 のがこの九人の準備委員であつて、不当にやるときになつ
 たら促進委員というふうなものえ改組するといふ言葉
 は使ひなかつたですが、そういう意味の甲合わせがあつた
 と存じます。従ひましてこの七万円は準備委員の旅費
 七万円でなくて、将来促進委員会というものができたら
 もっと強力な特別委員会ができた場合にいろいろ視察
 に行きたい。こういう意味で一応七万円を上げた次第で
 ございます。

○三番(伊勢仙之助君)どうしますと特別委員会が正式にでき
 ないときには、議会の旅費として使用目的があれば使つて
 もいいというふうに解するんですが、そういうふうに持つと
 いう前提のもとにお組みになりますか、どうか。

○市長(田村利男君)市当局の意向としましては議員の視察のついでにあの城をみてきてくわいということがあることも普通の研究視察というような場合には流用しない。先ほど伊勢議員のいわれた促進委員会が専門に研究するためのともしき予算こういうふうに計上したつもりでございます。

○教育長(工藤和平君)オニ点の質問にお答えいたします。

教育予算編成に当りまして特別に校長会議とかその他の会合はもちませんで、たが各校長に新年度予算について要望書というものを提出させましてそれをつぶさに検討して予算編成上の貴重な資料としてございます。

○三番(伊勢仙之助君)そういたしますとP.T.A関係の意見というものには全然お聞きにならなかったんですか、この点重ねて質問いたします。

。教育長(工藤和平君)ト、T.A.の方は聞きませんが校長の意図のなかに織込まれておるものと解釈しております。

〇三番(小沢太助君)六十七ページの都市計画事業について昨日田中議員から質問がございましてそれに対して市長直は答弁なさったんですが私はこの問題について相当疑義を持っておるので本日改めて質問いたします。

三十二年度の都市計画についての決算書に基いた例を引用いたします。

重要幹線道路事業の予算が六百二十八万公園費が四十三万一千合計六百七十一万一千円という予算でその予算の出所は国費が四百万約六割強三百四十四万四千七百三十三円というのが都市計画税でまかなわれておりこれによって重要幹線道路がつくられるのでありますがこの重要幹線道路をつくるについては市民等しく同じ税率で負担

をしてあるのであります。ところが農村あるいは漁村地帯へ行きますと昨日市長が説明された通り重要幹線道路というものが市街地を重点的に敷かれています。ために農村および漁村の道路をやるときには失業対策道路という性質のもとになっておるといふ御説明であります。これが私にはわからないのであります。市街地を重点的に敷かれていますところの重要幹線路というものは国費と都市計画費でまかなっており田舎の方の人は都市計画税を納めているにもかかわらず自分の地域の道路を平ういて失業対策事業としてもうって実行しようとするときには受益者負担がかかる。こういう矛盾があるように考えているのであります。これを六分の一なり五分の一の受益者負担をとらずに都市計画事業と同じような意味で失業対策事業をやつてやるべ

きではないかと考えております。

この都市計画事業の指定を受けるのについても市街地に青線が引かれておりこの青線を準村地帯および農村地帯へと持っていくとするチャンスがない。

昨日市長がいわれた通り県の都市計画審議会で審議にかけるとする都市に青線を引いており田舎の方に伸びて行かない。一かゝるが故に市民の負担を公平にするためにはそういう方法で負担を公平にしてやるというお考えが市長にあるかどうかは、さし御答弁をおねがいしたいと思つて。

○市長(田村利男君)お説も、ともでございます。

市長といふ一まゝではなるべく市民に均等な公平な事業を行う。幹線道路におきまゝでも矢対事業におきまゝでも公平を期したいわけでございますがいま

のところがいまのような方法でやるか江方がござ
いませんで御了承がいます。

○三番(沢太助君)市長さんは将来もこの失業対策事業
をやるときには四分の一ないー五分の一の受益者負
担をとらなければやらない。こういうふうに解釈して
よろしうございますか。

○市長(田村利男君)当分の間そのような方法で行きたいと
思います。

○三番(沢太助君)ところでもうひとつ私はおききます。
その道路はどうしてもそこを通さなければ折角は
かの道路ができていってもツィボ道路で百％その道
路の利用価値がない。ところがその道路を通そうと
するためにはその付近の負担金をすべき受益者をつか
むのに非常な困難な場所がある。こういう道路を通す

うとするときに受益者負担金を徴収する該当者を抑えることが困難な場合どういふふうになりますか。

○市長(田村利男君) そういう個々の場合にはまた特別に御相談ねがいたいと思っております。

○二番(高橋文治君) ただいまのい次議員さんの質問に関連性がございませうので……。

セー三ページの三十一節施設費の土地購入費でございませうが三十二万計上してございます。

いままで市道改修とか新設する場合にその用地を買収するに当りまして実際の買収価格と設計の買収価格があまりにも差額が多いのでございまして土地によりましてはほとんど市の設計の方は三分の一もしくはもっと安く設計されておりますがこれは実際の買収価格で設計すべきが妥当だろうと思うのでございます。

この点につきまして課長さんにおねがいいたします
いま一点はいままでこの用地の買収価格が反当六万程
度しか設計されておられないようでございますが三十三
年度も買収価格の基準と申しましうか六万程度になると
思いますが年々土地の価格が上がって参るのであります
すのでもっと本年は上げる見込みでございますか、この
二点をお尋ねいたします。

○市長(田村利男君)課長に説明させる前にさうとお話したいと
思います。

果ならびに市の事業はいつも安い土地を提供させるの
がいうなれば欠点でございます。一かーながら果であく
まで大綱を示して参りますので果といたしましてもお
そらく賃貸価格の何倍かで、税金の対象には賃貸価格
を標準としておりますのでまたこれを買収するときに

も賃貸価格を標準とする値段で従いまゝて十五、六万
するようなものをあえて六万くらいで買うという不合
理な結果になると存じます。果の方針がそういうわけ
でありますので止むなく市で踏襲しているわけござ
います。細かいことにつきましては課長に。

○建設課長(新井重助君)お答えいたします。

私ども道路改修のときに潰れます特別の代金の支払い
については土地の価格すなわち普通売買は相当高いと
いうことは承知してあります。それ以外に買いたいか
ように考えてあるのでございます。

都市計画事業の国費負担のものにつきましては評
価価格の二倍を限度としてやっております。それ以上は
市の負担といふとこういふ内示もございしますのござ
いこの道路をやってもいい。という希望のところは

その御希望に添うようにいたす関係上なるべくならは
安い土地でと考えまゝて個人に對して非常な御負担
がかかりますが總体的にみまゝて御負担のかからない
ようにいたそうと思つて一五倍程度を標準として現在
買つております。これは地えが道路に對する熱意の表
わいでございますのでこの辺のところを御了承ねがい
たいと考へております。なお三十三年度におきまゝ
てもその辺の標準で買収いたしたいとかまうに考へて
あります。

○ニ番(高橋文治君)不承了承いたしますが大分では現在登記
所で決められた買収価格よりはるかに下つておると
思ひますのでせめて登記所でやゝっている買収価格と
いいますか基準が決められている程度に計^設していただ
きたい。かように要望するものでございますがそれはできな

いもんですか。

。建設課長(新井重助君) 天業対策事業でございしますがこれは遺り地とか移転料こういうものに対して補償金がないのでございまして全部市費持ち出しになっております。そういう関係上これを大幅に値上げするということは相当公費も増額いたします—毎日二十五人の天業者を救えということになっておりますので非常に公費がかまいます関係上一応二五倍くらいでねがいたいとかように考えております。

。二四番(山本昇君) 教育につきま—て七十八ページ二十四節の学カテスト用印刷費 その他印刷費につきま—てお尋ねしたいんですが。この学カテストの目的はいかなる目的でこれが実施されるのかこれがひとつなんですか。

これは昨年市でもやりまた県でも全県下一せいにやった

と聞いておりますが、昨年度のやりまゝに県下の小中学校とくに小学校は六年生を基準としてやつたように聞いておりますが、その結果の成績が非常に館山市の小学校もまた中学校もいいと聞いております。成績の状況はどの程度であるかということをおとで知らせていただきますが、これをやる動機といつても、果の方の方針が本来であれば指導課でやるべきものを庶務課でやつた。その庶務課でやつたのと目的は、この教育費予算の計上に必要な参考資料とするためにやつたときいておりますが、館山市の場合もさういふ目的でやつたかどうか、やつたとするならば昨年度の成績の結果、本年は昨年行つた労力テストの結果により予算上にどういふふうな影響を及ぼしてあるかどうか、その点も併せておねがいいたします。

なお県下全般で行った場合都市と郡部ではほとんど市街地の成績がよかった。そうして郡部が悪かったというふうにきいております。これに関連いたしまして定員数が倍数式との漸増式とかいうような専門用語があるようですが非常に学級の編成に大きく影響を及ぼしてきており、館山市でも北条小学校は二学級減り館小学校では一学級減るような傾向であります。それに伴いまして農村部の方にはむしろ学級がふえる。こういう矛盾がある。これにつきましてテストと学級の増減の問題をどのように教育長さんは考えているか。こんごこの問題についてどのような考えで指導される御意思であるか、この点を教えていただきたいと思います。

○教育長(工藤和幸君) 山本議員の御質問にお答えいたします。

市で行います学力テストの問題こいは県でやっております。考えとは違ひましてあくまでも子供たちの学力水位を向上せしめる。こいが主なる目的でございます。

従いまゝ庶務課云々ということではございせん。県でやります学力テストの結果はいかんながら我々末端までには詳細にその内容を知ることができないのであります。調査を実施する以上はその結果をつまびらかに知ってその結果に基いて新しい計画を樹てる。いかんしてこの子供にはこういう難点がありこの学校にはいかなる欠陥があるかということを見極めて新しい教育方針のもとに除去して行くのが調査を施した目的であらうかと思ひます。こういう点について県で行うもの、あるいは全国的に数校の学校を指定して行く

考査については我々としては満足が行かないという観点
 から市独自の計画のもとにばく大な予算をもらつてまで
 もこの考査を実施したわけでございます。また来年度に
 ついてもかような考え方のもとに立つて今年はや学に
 ついては三年の学校については六年にこのテストを課
 し、またが来年度は小学校については五学年や学につ
 いては二学年というふうなところに実施してみたい。
 こういう考えを持つてあります。

なおその結果はどうであつたかというお問い合わせござい
 ますが果で行いました結果は大略的に知つたのでありま
 す。館山市は算数、国語いずれにおいても県下において
 や学校においても小学校においてもオ二位こういう結果
 でございます。

そうして都市が郡部のそれに優るといふのは一般の傾

向でございますが千葉市をーのいであつたというところ
に本市の特色があつたかに思ひます。

つぎに教育定数の問題で倍数方式漸減方式この点
につきまゝではお説の通り大都市は非常な影響を
蒙るんであります。私どもといふ――まゝではで
るだけこの点の矛盾を解消してもらつてくれ果当局
に再三要請を――たのでありますけれども大勢の赴く
ところいかんともなうがたゞ倍数方式に一応なつた
わけでありすが将来に向つてもいづゆるスミ語学級
の解消に努力いたしたいと思ひますが現実には文字通
りのスミ語ではございせんので一層教職員を督励い
た――まゝして学力向上に努力いたしたい。かように考え
ます。

○二四番(山本昇君)教育長さんの御説明でわかりま――たが果
でやる場合には予算編成の参考資料として学力テス

トをやったときいてあるんですが市でやった場合には予算の編成には関係なく^見童に必要でやったんだというお答えであります。がーからば市でやった場合の結果として指導の面でこういうふうにやったとこれがひとつ教員の定数の問題でどうしても当市がこのミワ寄せをうけましてもちろん文部省の方針のもとにどうなったと思います。すがなとかその点は現地において便宜上なんらかの方法がでないもんであるか絶対的に駄目なもんであるかその点も併せてもう一回教えていただきたいと思ひます。

。教育長(工藤和子君)最初の御質問の本市で行いました考査の結果におきましては各学校ごとにかかることはもちろんであります。が学校^学年、学級まで大体の結果がわかつてあります。もちろんこれは当時者に公表いたすのに止め

まゝて君のところの学級、誰ぞれ先生の受持の各科についてはこの点について欠けるところがある。こういう点非常に特色があるといった指導をしております。これはこんご大いに効果があるかと思つてあります。

オニ点のスミ詰学級の解消はどうしてもできないか、こういう御質問であります。これは遺憾ながら先ほど申しました通りであります。

○ニ番(吉田勇治郎君)又土に関連して……。

これはどこという項に属する問題でもないんですが、とくにこの予算をみまゝて工事は年々ふえる傾向で誠に喜しい現情でありますがこの工事の結果過程こういうものについて工事請負についてお尋ねしたいと思つております。私たちは社会通念の請負について民法の六百

三十二条ですかこの請負という意義を専らでいってあ
うれるとみています。がたまたま結果論としてまーては
あてこ■の工事はいつおわるだろうかと聞かれて予定
がいったといってもできない。あるいはこういう事情
だからこのくらいだろうというような仕事にあて
まーてもその工事はさらに延びるというようないけ
で一応の公共性を持った仕事は大部分であります。が
それに対してまーてとくに近い例をとって甲ーますな
らば西小学校の建設であります。三月二十八日完工とい
う予定で工事を進められたと承っています。がそれが十日延び
る十日後に完成するといつて十日後にもまだできない。

そういう例が他にもいろいろあると思いますが西小學校
に例をとりまーてお尋ねするんですが請負というものは
どういふふうな処理されているか、こんごどういふふう

にやうて行くかその点について御説明をねがいたい。
。教育長(工藤和平君)お答えいたします。

学校工事に関します請負いにつきまゝてはお説の通り期限内までに正確にできあがるべきものでありさうに監督すべきものと考えますが不幸にしてそれが延期したという場合にはその延期の●の願いの内容をよく調べまゝてそれがみずからの怠慢でありますとかその他自分の方の故意の結果であるといったようなことが判明した場合には延滞料をとるとか法的な措置はあらうと思いますがすけいどもさうでない場合は内容をよく検討して認める場合があるわけでございます。西川の場合はお話のように二月末に完工することになっておりまゝたが御承知のようにあの校庭に新しい土盛りをしたのでございまず。土盛りした関係で資材を運搬するのに関うする日

子を要したことがひとつの理由モルタル等の吹込みをする場合に雨天の場合は不可能であつてかような点で願ひでまいたので正当であらうと認めまして十四日まで延期を認めたいわけでございます。

将来についてはできる限り約束通り完工するように督促したい。こう考えております。

○三番(吉田勇次郎君)いま学校の当時者とくに教育長さんの御答弁がありましてたが西小學校については了承していただいて他の工事も関連していただきますので市長さんの答弁が妥当だと思ひます。

ねがひくば私は請負人という意義に従つてすべてを運営していただきたいと希望するものであります。

○市長(田村利男君)請負の問題ですが細かいことは建設課長に説明させますが市というものは一般指名入札の例

をとっております。契約期間内にはかならず竣工させるという方法をとっております。そうして先ほど教育長が甲上げましたように故意の工事遅延というふうなことが起きました場合には追徴金をとるなり適当な方法をとる方針でございます。

。建設課長(新開重助君)請負人は現在建設業法によりまして登録いたしたものを選定して指名いたします。指名いたしまして入札にかけるのでございますが請負人自身自身は非常に良心的でございますが現場に立ちます代理人等において怠けるようなものが非常に見当るので見当るのでございしますがそういう関係上工事が遅れるという場合も生じて参ります。あるいは請負人自身の決算の問題で工事が遅れていくということもありまして正当なる理由によりまして工事の遅延は先ほど教育長が

申上げました通りで工事の期間の延長は認めなくやなり
ません。認めたものによりましては延長期間内にならうず
は上げるよう督促いたすのでございますがその期間延長
が事故その他によりまして再延長等の止むを得ない
事情が生ずることもございます。そういう関係上工事が
延びて行くのもございますが私どもといたしましては
当初契約の期間内に完成いたすように努めて参っており
ますのでこんごかような延期とかそういう事故がないよ
うにやって行きたいとかように考えております。以上で
ございます。

○三番(吉田勇名郎君)了承いたしました。ただ請負ということに
ついていろいろ理由があつて延引する場合のことは説明で
わかりませんがなおこんごの運営に當りては請負とい
うことに關しては遵守されるように要望いたしまして

私の質問は終ります。

〇三番(福岡保徳君)セ十七ページ教育費五節の職員手当十萬二千円があります。これは建設技術を入れるとのことですが本年も婦人会館はドめ船形小学校の工事が大小合せて二十五件くらいあります。建設課で修理して移管し完全を期する考えがあるかないか市長に伺いたいと思います。それから九十六ページ二十四節の工事請負費で三百万円婦人会館新築工事費というのがあります。がいま一度建てる位置構造時期を发表ねがい。また将来の維持の責任がどこにあるかをお聞きます。以上二点。

〇市長(田村利男君)工事関係はすべて建設課へ一本化にするようにという御意見でございます。が市といふまいしてもこの問題はなお慎重に考慮いたしまして取扱いたいと思います。つぎに婦人会館の問題でございます。が大体敷地はまだ決定

してありませんが教育委員会の意向といた一環としては
公民館の敷地が適当ではないだろうかというような御意
見をお持ちのようでございます。着工の日時でございます
が予算が通り次第やっておりますがすでに
婦人会の方から二百万円の寄付申出がありでござるだけ
婦人団体の意向も尊重して早期に建てたい。こういう
ふうに考えております。

管理でございますがあくまでこれは市の事業として
市の建物としてやる以上市の管理にしたいと思ひます。

〇三番(福岡保徳君)オ一点の工事関係の一本化をおねがいす
るものでありますがいまの西いの遅延過日の館山市
の事件こういう事件は人員の整備などの点からさ
てあるのだと思ひますので一本化をおねがいします。
それから婦人会館の管理ですが市で管理する場合維

持費もかかると思いますが過日の市長の施政方針で
六七月とのことですがそれ以後の維持費については追
加予算で廻る考えですか。

市長(田村利男君) 建築した後におきまして必要があれば
追加予算でも計上いたします。

九番(黒川佐太郎君) 教育費の需要費の内容についてお尋ね
します。

教育費の需用費が増額されたということは誠に長ばしい
次でありますがこの内容を一応検討いたしますと備品
費甲の教材費理科設備というものに大して増嵩をみ
ておらんのであります。国家でも科学教育の振興を
意図してあるように聞いております。そういう点か
らいつて教育の内容を充実するという面からもつと
も重点的に考うべきものじゃないかと思つて

あります。が教育長はどうお考えになるか。

また需用費をふやした場合にここに重点をあかなか、
た理由があつたならばその理由を御説明ねがいたい。
オ三点は需用費が増嵩になつたがまだ不十分だと思
うのであります。決して多いとはいえないのであり
ます。これに対して増嵩せしめる意図ありや否や。
この三点をお尋ねしたいと思ひます。

○市長(田村利男君)あとの需用費の問題ですがただいま
では主として学校校舎の建築という面に過去三年間
を貫いて参りました。本年度船形の学校を完成しま
した引続きまして九重の学校の焼朽校舎を改築しま
した後はかなり校舎の充実というものを見るわけ
でございますのでできるだけ多く需用費の方へ差向
けたいと考えております。

○教育長(工藤和平君)お答えいたします。

需用費につきまゝではなぬといふよりは、私
ものごゐるところでございす。が、こゝも市の予算に
限度があります。ごく教育予算にも限度がございま
す。ので将来に向つてさらに努力したい。こういう気持
でございす。(科学振興に對しての御意見を承りた
いと思ひます。それに因連します理科設備の教材と
いう面が貧弱である。こゝに對する御意見を御答弁
ねがひたいと呼ぶ者あり)お答えいたします。

科学教育の重要性もお説の通りでございまして、わ
れわれとしてほつと増額したい熱望でございまして、
たが補助金の面等ございす。――なおその足りざる
ところは、實際の指導面で可能ではないか指導面で補ふ
うといふので、科学教育に堪能な技師を送致いたしま

して強化指導員という面目でこれを補って行きたい。こういう考えです。

○九番(黒川佐太郎君)一応お説ごもつともでございますがただ指導の面だけでは科学の教育はできないんじゃないかという関係があります。例えば実験などそういった面の充実が市内の中学校の科学的設備をみまーたときに感ぜられますのでそれと併せてこの科学教材の充実をお図りねがいたい。こう存するものであります。

○議長(石井潔君)先ほど丁七番議員に対する答弁保留がございまーたのでただいま監査委員の方から答弁させます。

○監査委員(関武男君)先ほどの丁七番議員さんの御質問にお答えいたします。

市の振興費の交際費ならぬに市の交際費これらの
便い途であります。が市の振興費は文字通り市費を
使う場合ことごとく市の振興発展には関係があるわ
けでございませうが主として観光方面諸事業の誘致
をするような場合の交際費が主として支出されてあり
ます。例えば国定公園の関係とか海員養成所の誘
致の関係とかそういう、た方面に使われております。そ
て予算四十五万に對して二月末におさまして三十五万九
百七十一円使用されております。市の交際費につきまして
は市役所の役所としての交際というふうに考えられるの
であります。が市長交際費と考えようによつてはど
ちにもとれるような場合の便い途もあるんであります
すが例えは陳情する場合に市長の裁量で市長交際費
を使つていよいよ向うから調査に参るとか出来たもの

を審査に参つたとかいふような場合に生じている場合もございます。

市長の支出は比較的口の金額が多うございまして一月以上のもものもありますけれども一月以下のもものが大體多いようであります。これは予算四十万月に對して二月末におきまして二十六万五千五百五十円使用されてあります。

以上でございしますがこの答弁でいかがでございませうか。

○二番(鳩貫壮作君) もっと細かいことを聞きたいんであります。がそのくらいで止めておきます。そうしますと両方とも二月末で十万円ほど余っているということになるわけですね。(どういうわけでございしますと呼ぶ者あり)

○三番(高橋文治君) 保健衛生費につきましてお尋ねいたし

百十五ページの四項の二十三節に三輪車の修繕費が四万円計上されてございますが隔離病舎が昨年六ヶ村の方で廃止されております――万一遠隔のところに伝染病が発生した場合館山市に患者を運ぶのに現在のあのオート三輪のボロボロなやつに四万円かけても重患の場合合算します病気が悪くなるんじゃないかなかろうかと思うのであります。むしろ四万円で修理するより救急車を一台早急に購入する方が大変いいんじゃないかなかろうかかように思うのでございますがそれにつきましてはのお考えをお聞せぬかいたいと思います。

官山古義全

軽車を一応充當したい。そしてこれで暫定的に処置したい
と考へております。いずれ正式の隔離病舎が確定しまし
たときには立派な運搬者を予定したいと現在はいこうい
うふうに考へております。

○ニ五番(松本藤太郎君)百二十ページ清掃費のところですが掃
除天一人計上してございますが一名でなく大分あるようにで
すが何名くらいほかにあるのか。それは下の需用費の
賃金のところにあるのがどうじゃないかと思ひますが
人数をちやうと教へていただきたいと思ひます。

○商工水産課長(羽山房雄君)お答えいたします。

臨時用人五名の賃金でございます。

○ニ五番(松本藤太郎君)臨時人天五名で七十三万四千円という
月いくらいになるんですか。實際の本採用の方は一
人で十一万七千六百円ですか。月割にすると九千八百円に

なる。七十一万四千八十円を五人で割ったとするとも月二千円にもなうないのであります。この点ちょっと明かにしていただきたい。

○商工水産課長(羽山房雄君) 日給の最高が四百二十円 最低が二百五十円このように記憶しております。

詳しいことは担当課長がただいまだ遺骨伝達の方へ出てありますので代って答弁いたします。

○二九番(遠山ヨネ子君)きのうの質問のつづきになるんですけれども八十九ページの公民館のところで館長、副館長、分館長報酬とあって十人分ありますすがこれはどことどこの館を指すか御説明いただきたいことと、去年たしか公民館活動を盛人にするためだという意味で分館長をおふやになつたと思うんですけれども旧市で私の知っているところは那古だけで北条、船形、館山も出来ないうん

ですけれどその予算をどうなされたか、いないところを
 どういうふうになさるおつもりでいらっやるか。その
 人選が予めできていらっやるか。

それから七十一ページ公園費とありますが説明のところ
 よつと聞きまうたかも知れません。遊歩道路でござ
 いま。ようか遊歩道路の設備といひますと汐入川の
 沿岸と聞いたように思ふんですがこの二点です。

。教務課長(鵜沢寛覚君)お答えいたします。

公民館費の報酬のなかに館長、副館長、分館長報酬一人
 三千円十人分でございますがこれは本館の館長が
 一名、副館長が四名にいは旧市の北条、館山、那古、船形
 分でございます。分館長は旧村に各一館ずつ六名です
 がそのうちの事務局の職員が兼務してありますので
 五人合計十人でございます。こいで現在船形と北条が又

っておりません。館山と那古は決定しておりま
すが今年北条と那形は選定する予定でございます。
三十二年度の予算はそのまま不要額として落すことにな
ると思います。以上でございます。

○建設課長(新井重助君)公園費についてお答えいたします。
公園整備費でございますがこれは北条の汐入川から
八幡まで現在道路ができておりますのでその区間は
海浜公園といた一まゝで整備いたそうと考えてある
んであります。が昨年あたりからここに散歩者が
ございまして依然として雑草が生えております。
かような状態を長くつづけておきますことは観光上
おもしろくないので三十三年度におきましては遊歩地帯
と申しますか一応百メートルから百五十メートルの間に遊
歩道路を作りましてその間に植樹をいたしたいと

考えてここに予算を計上した次第でございます。以上
でございます。

三番(望月暉作君)六十三ページの街灯費につきまして
御質問申上げます。

先般の各款説明で街灯が二百二十七灯設置してある
とかように聞いておりますが実際に必要なところ
にないところが多い――盗難の予防と事故の発生
を未然に防ぐ大きな役割をすると思ひます。がらこ
の实地踏査をする意思があるかどうか。

野水地などにおきまして街灯がないために事故が
あるということも聞いておりますのでこういう野
水地のあるところにはぜひ設置してもらいたい。
なお設置した個所のその後の維持管理と申し
ますか設置してあるのについてないところが多々

あると思いますのでこういう問題につきまゝして
係員が定期的に巡視しているかどうかを伺
います。

つぎに昨日一般質問で申し上げました商工会議所の
展示所の問題でございますが昨日の市長の答弁で
すもとありあえず百万円のうち三十万出すといつて
おりますが商工業者の要望としてなるべく早
く—できれば今年度中に建設—たいというふう
な意気込みでございますのでともしすればすでに建
つてしまつたものに対する補助金はないというこ
とを言つてますけれどもこういう場合借金かなん
かで建てた場合でも百万円の補助ということとを計
画にいたしたのでこれに対するは、まゝり—た答弁
をふたべいいいたします。

市長(田村利男君)私の方としましては新しく建てる
陳列所の建設資金、館山市へ要求するの、うちすでに
十万円を廻み三十三年度に三十万円を廻んだ。こうい
うふうに解釈して支出するつもりでございます。

建設課長(新井重助君)街灯費についてお答えいたします。
何分にも人員が不足でございなか、たうでございしますが昨
年の十月ごろよりぼつ／＼調査をいたしております。
これを全部調査いたしまして維持管理を完全にい
たいたいかように考えております。

街灯の性質といえますとこれは道路照明でございま
して野水地その他の照明ということとは道路の方とは
縁遠いんじゃないかと考えております。私も各地の
市役所等にござや、かいになつて参りますときに街灯
費についての経費ということを非常に考えて質問

するんですが各市におきましてもあまり街灯費
を土木費に計上してあるところは少ないのでござ
います。この施設をするときに一灯につき五百円と
か千円の補助金を出す程度でございましてあとの
電灯料その他についてはあまり計上していないよ
うに見受けられますが当市は特殊の事情でござ
いますので一灯二百二十七灯を完全に維持して行
きたい。かように考えております。野水地その他につ
いては私の所管外と考えております。

議長(石井 潔君)こいをもちまして午前の会議を終り
まして午後一時まで休憩をいたします。

午前十一時五十四分休憩

午後一時 六分閉議

議長(石井 潔君) 午後の出席議員数二十六名、これより

休憩前に引き続き会議を開きます。

八番(金木久一君) 畜産奨励費についてお伺いいたします。すが昭和三十一年度には畜牛導入補助金というものがございましたが、本年度は落ちておるようでございます。いましてこれはどういうわけですか。所管課長さんにお伺いします。

農産統計課長(吉田耕一君) お答えいたします。

百二十ハペーゾのただいまの畜産奨励費のうち補助金の点でございますが、これは大体三ヶ年を限度として設けておる、たんだというふうに聞いておるわけでございます。そして本年度はそれを経過いたしまして、たので一応この程度で打切、たうという考えから、三年度におさまっては計上いたしませんで、だ

八番(金木久一君)御承知のようによ酪農とは非常に発展してありましてござます。畜畜農家というふうな方向に向つておるんでございます。が、こんど市としてはどういうふうな方法を取つていただくまいか。考えてございます。が市長さんの考えはいかがでござうか。その真承りなれと思ひます。

市長(田村利男君)酪農乳牛購入費の奨励費かと思ひます。が、この真三ヶ年計画をもちましてやつて参ります。て本年は一応これで打切りましてその費用をもちましていていろいろ他の方面から酪農関係に奨励して行きたい。こういう方針を樹てたわけにございます。なおいちろく畜産酪農方面のオ々と協議いたしましてござます。酪農が発展するよう御期待に添うように努めたいと思つております。

一六番(田村兵衛君)百三十四べーにお布良の救難所が少一盛
 ってあります。皆さんにお語りしてもう少一なんと
 かーていただきたいと思つてあります。その
 理由は皆々御承知のとおり布良は昔から共
 済救難会があつた。布良に救難する船がござた
 ために救難会の設置を―たつてあります。とこ
 ろがそこに四十名(発言不明瞭にて聴取不能)
 その費用として……問題になつてあります。こ
 の莫……もう少一予算をふやしてもういたいと
 おねがいする次第でございます。

一七番(萩生田七郎君)教育長さんにお伺い―たいと思ひ
 ます。が教育費の問題で先般伊勢議員のうみなり
 入幅に削減されたという問題が、おたんです。が内容
 を検討してみますと、管理費が減つてゐるんでこ

れは減るのは当然だ。この問題はきょうの新聞にも
出ておりまして、たが自若庁からの一般地方団体に対
する通牒というつにPTAの負担がきわめて多い
当然市で負担すべき費用を父兄に出さしめて学
校の運営に當つておるといふ現実これを速かに
改めるといふことでその全国的な通知を出した
というふうに新聞にでておりますが、館山市の場
合も私も父兄としてかなり多いと思われまゝす。
教育長さんにいふとつ考えてもういたいことは各
父兄は子供可愛いのであまりかなり無理して借
金をしてまでPTAの会費を負担してゐる。こ
ういふ気の毒な経済の方が多し。そういう子供
に肩身の狭い思いをさせないといふ親心から出
発して負担してゐる。その金は市で負担すべきも

のであつて、こういう現実となるべく軽減するよう
な方法を講じるようご相談をお願いしたい。この点につ
きまゝして、こういう自署庁の通達がありますのでこ
の点について教育長さんの御方針を承りたいと思ひ
ます。

市長(田村利男君) 萩生田議員に教育長からご返事のある
前に一言申し上げたいと思ひます。

この問題は午前中にかなり論議になりました。教
育長も方針を述べたわけであり、ますが結論に
おきまして市の需西女費あるいは教育費はいか
に増額したい、まして一般PTA会員は不満で
あるにもかゝらずPTA首脳部がやはり学
校との接触が密であるためにPTA以外の学級
費あるいは特許プランコというふうなものと学級

ごとに買っているという真情にあることは私も九
人の子供を持ってありますので痛切に感じているわ
けでございます。この席でいうのははばかりますが
PTA首脳部がもう少一学校当局の希望を拒
絶するような立場をとってもらうことが一番望
ましい。いかに需要費を二割三割増額しても例へ
ば東京の成城高等学校、成城中学、小学校を視察し
てくれば全部その真似をしてたがるのは学校当局と
思うんです。それを帰ってきてPTAに話すとそ
の真似をしようというふうなことになるわけでござ
います。鑑山市全体の父兄がもう少一自分の柄
にあつたPTAのあり方ということを考えていた
だきたいというように私は考えているものでござ
います。

さらに教育長から御説明申上げますが、私はそういう考えを持ってゐるものでありますことをつけ加えておきます。

田村議員にお答え申上げますが、

事奥白浜から磯崎^{イソキ}布良野房の岬を控えての海

難救済事業に對しまして非常に漁師が二足の

ワラジで救済所買的な存在であることはよく存じ

てゐるわけでございますが、現在のところ予算に

盛りまゝたりは一万円でございまして、一かゝるが

うこれとても決めて多いわけではございません

で、そればもゝと盛って上げたところでございます。

この予算はこれと一まゝてこんど水産常任委員

会なり他の機関で御研究なさつてまた必要があれ

ば必要があるように考慮したいと存じます。

。教育長(工藤和平君)教生田議員のPTAの問題についてお答えいたします。

三十三年度の各学校のPTA予算として使用している需要費の総額が三百七十七万六千八百三十八円という数字が出ております。それに対して公費でまかなうべきものをPTAで負担しているものが約五百十八万四千八百六十二円という数字であります。このような状況でありましたに對して、市の需要費は、もう一度説明をいたします。と市でPTAの予算として配布いたしましたものが三百七十七万六千八百三十八円でございます。

それに対してPTAで当然公の費用でまかなうべきものを負担してゐるのが五百十八万四千八百六十二円という数字になつておりますのでこの差額をどうするか。

くいたい。こういう気持で年々需要費の増額を私どもは努力してまたわけでございすので今回二〇%の増額が幸に認められましてたあかつきにはわれわれの意図するところを十分に学校長あるいはPTAに連絡いたしまして父兄の負担をできるだけ少なくしたい。こういう気持でございす。

・六番(秋山)次君(農林費)の採種圃委託料について吉田課長にお伺いします。百二十五ページです。

本年度の市の採種計画とそれから過去数年にわたるところの採種圃によって新品種などの程度、飯山市全体に普及してあるか伺います。

それから市では適地適産を奨励しまして非常に果樹野菜の増産を図ったがその結果は相場

の下落となつて特に野菜の暴落がひどいのであり
ますすが、これらに対する対策を考へておるか
どうか。その点を合せて伺います。

○農産統計課長(吉田耕一君)お答え申し上げます。

お一同の新品種の奨励効果に對しての御質問につ
いてお答え申し上げます。

大体採種圃を委託いたしまして県の奨励品種に
限定をして委託してあるわけでございます。そう
いたしまして同じ品種であつても他の圃場で栽
培された品種を持つてまいりまして大体三ヶ年
間におまゝして面積の九割までを更新して参り
たいとこういうふうな計画によりまして県の指
導等によりまして現在実施してあるわけでござ
います。その効果でございますが大体現在におま

ますところの水稲にありましては採種圃面積を五町七反程度目途としてあるわけでございます。品種を十三品種に果が指定してありますので市といたしましてでもそれを採用してあるわけでございます。

これを五十七名の篤農家に委託いたしましてこれが種子の改善増産に努めていただくように努力するわけでございますが大体採種圃で生産された利用率というものを調べましたところ大体五四%利用されてあるという現況でございます。なお増収効果等でございますがこれは普及事務所等の調査でございますが大體五十八%の増収効果を納めてあるというふうに伺っております。以上が第一回の質問に回答いたしました。

第二回の適地適産に對しましていろいろ生産過度

という面におきましての対策というふうな御質問
間と思ひますがそれに対しては適地適産の
計画を進めると同時に本年度から販売の指導督
励という面に重点をおきましてこれが増産に努
めたいというふうに考えております。

なお県の指導等もその線に添っていくという方針
でございますのと同一歩調をとって進んでみたい
とこう考えておるわけでございます。

○二四番(山本昇君)教育費の問題についてひとつともう
ひとつは百五十五ページの市の市税徴収の奨励啓発
費の問題についてお尋ねしたいんですがまずオ一
に教育費の問題でとくに館山高校の問題であり
ます。館山高校の本年の卒業生が二百四十四名あ
りましてが館山市立高等学校といまして市

民の教育機関として経営すべきが本来であります。貴重なる市税を相当使つてゐる。特に施設組合の肩替りで一千万円という金を税金の方から支出してゐる。こういう現実の状況からいへば、してゐる得るならば市民の教育機関であるところ、いう根本觀念に基きましてゐるだけ市民の子弟を受け入れていたゞきたいというのがわれわれの市民感情ではなからうかと思ひます。ところが現実の問題といへば、まして市内の出身の子弟よりも市外出身の子弟の方が多かゝたという現実であります。すがこれをこんでいかように考えておられますか。どういふ方針でいわれますか。その莫いところをお考えを承りたい。

もうひとつは報償費の問題であります。納税

組合の報償費がございます。これは現在市内にどのくらいの数があるか。またこれに對してどういう事實によつてどういふような方法で報償金をやつてゐるのか。百万円ばかり盛つてありますがこの莫を承りたいと思ひます。

。教育長(工藤和平君)最初の館山高校の問題であります。私どもお説のような感じを持つてゐる一人でありますのでこの問題につぎましては校長と共にある程度の研究をして事がございしますが入学に關しましてはなんと申しましても校長の責任であり校長がやることについてわれわれは全幅の支持をせねばならない立場にあるわけでございます。入学試験を経て入る場合に同じ条件のものを甲をとるか乙をとるかといふような場合にはいまお話がござ

いま一たような観点から市のものを可及的に多く採用するようにといいことは私も希望として甲へれてある次でございまして、こんごもかような点は考えられるであらうか、こう思っております。税務オニ課長(伊藤幸太郎君)オニ点の報償費についてお答え甲上げたいと思います。

組合の数でございまして百五十一組合になります。組合員数といまして七千四百三十二名と数えてあります。

次に報償費の点、オニでございしますが三種類ございまして組合を設置したものに對して設置と同じにしまして設置奨励金と組合員が設置後に増加した場合の組合員増加の奨励金それから組合員全部が年度を通じまして完納いたした

場合の完納奨励金 この三種類に分けて奨励金を
出してゐるわけでございます。

この三種類のち一方でございますがまず設置
奨励金におきましては組合員一人に対して二
丁月の割合をもつて交付してございます。

組合員増加の奨励金は組合員一人増加と同時
に丁月の割合をもつて交付してございます。

つぎの完納奨励金の内訳でございますがまず税
額の百円に対して丁四月の割合をもちまして
組合へ総額税金に対して奨励金を出すわけでご
ざいます。それから納付書一枚について三月の割
合をもちまして計算いたしましてたものを合計
いたしまして完納奨励金として交付してござ
います。以上でございます。

二四番(山本昇君)オ一氏の館山高校の問題であります。すが教育長さんのご説明で一応よくわかりました。たがもちろん教育の門戸解放というような考えから行きますればどこの子弟であつてもできるだけ門戸を解放してやることも結構であります。う。またその学校の成績の向上というような観点からいたしまして、もう少しでもいい子弟を入れて、そして学校の成績を上げるということも一応考えられて、この案につきまして、でも決いてわからないことではないんであります。すがたが基本的な考えが館山市民の教育機関というこの根本的な理念に基きまして、たとき私にこんご市外の生徒の願書を受付けることについて十分なるお考えをわがたい。できるだけ市内の生徒の願書の受付を優先的に扱

っていただきたいと思います。先程は二者一択の場合に市内を優先に扱うかのような教育長さんのお話でありましたがそれよりも前に願書の受付の際に市内を優先的に扱って市外をその次にするというようなことができないのか。その点を教育長さんに尋ねたいと思います。

それから納税組合の件ですが詳細な説明で一応わかりました。これがこれにつきまゝでござる。――丁一の組合があり、て千四百三十二名の組合員がおり、います。がこんどなおこれが組織また育成強化という面にもちろん御努力されてあると思いますが、具体的にどのような方法によって進めておられるか。この点も含せてもう一ぺんお尋ねしたいと思っております。

。教育長（工藤和平君）重ねてお答えいたします。

願書受付にある種の制約を加えるということとは市民感情からでも、ともでございますが、実際に取扱う学校当局の立場としてその実際の具体策にはなほだ困難を感じるものでありましてこれは将来の問題になろうかと思ひます。

。税務オニ課長（伊藤幸太郎君）こんごの奨励の方針でございますが私どもの方としましては未設置の部落を一応単位をみまゝしてこの部落の区長さんあるいは町内会長さんなどにおねがいいたします。部落の方々の理解をおねがいいたします。そこで趣旨の説明と組合の設置につきましての話を甲上げて部落単位ごとにするという、た議会を持っておるわけでございます。こんごもなるべく

組合員となる方々と直接話合いをいたしまして納得の上の組合設置という線に進んで参りたいと考えておるのでございます。

○二四番(山本 昇 君)オニの納税組合の育成強化の問題につきましてはただいま課長の説明でよくわかりました。ところがこんどすくこうい、たことを奨励していただましてこれの育成強化に十分の御努力を切にあわおい甲上げましてこの問題につきます質疑を打切ります。

オ一奥の館山高校の問題であります。が教育長さんの気持もよくわかります。なかくは、まりーた線が出ないと思ひます。が私どもとすればどうい、た方向でせう進めていたでござい。と考えてあります。がこれに対する最高責任者で

ある市長でんの考えを伺いたい。

市長(田村利男君)教育の機械均等門戸解放といふことは非常に重大な事でありまして、館山高等学校におきましてもやはりそういふ隙に道めて行くのが妥当であると存じます。一か一がうお説のような事もありますのでこの問題につまましては教育委員会あるいは市会文教委員会などに相当御審議をおかけいたして、適当な線をお定めたいとこういふふうで考える次第であります。(了承と呼ぶ者あり)

十三番(小沢太助君)百三十四ページの船形環境の鉄橋の件であります。

この鉄橋の問題は昨年の当初予算へとて私は助役でんにおねがいして助役でんと約束を

―たはずであります。が作る時には市で作った
んたが県に移管して維持管理をや、てもらう
ことで早速県に移管手続をと、ていただくは
ずであ、たのが本年もまた維持修理費がでて
ある。その後県に向、て移管の手続をとられ
たかどうかそれをお聞することとこんごこの
鉄橋をこういう状況で毎年五、六万ずつの維持修
理費を継続してゐるときにも船形澳港は他に早
急にやうなまやいけない仕事を控えておりますか
うこの予算をこちらに回していただくように一
日も早く県に移管することを希望するもので
あります。

。商工水産課長(羽山 房雄君) ただいまの件についてお答
えいたします。

昨年度予算化していただいて、修理をいたしまして、
 一たび県に意向を質問しまして、実際に完全なもの
 とい、ちやあかーいんですが、ある程度整備され
 た鉄橋なら移管さうけるというような意向
 がみえ、たので、その線に添って今年この範囲で
 完全に近いものに修理いたしまして、移管手
 続をとりたい。こう考えて提案した次第でござ
 います。（了解と呼ぶ者あり）

一五番（谷無達君）厚生予算のことにつぎましてお
 尋ねたいんですが、さう午前中高橋議員
 からさうと隔離患者のことで質問されたこと
 后先般通告質問のときに遠山議員から清掃
 問題につぎましての質問がありました。ある
 いは重複する点があるかも知れませんが、午前中

この調理室を緊急にきれいに改造する意思がありやな—や本年の予算の中にもいふところもそういう面がみえないのであります。

かつそのほかと場塵埃問題下水問題あるいはふん尿問題いろいろそういふ、た厚生施設としていふこともみるべきものがないのであります。ことに塵埃の問題なんか当前はじまして、以来からの正代の市長がこれについては研究されておるかと思われまして、十数年経つて果日に至るまでなんう見るべき点がないとつて現われてこないように思われます。下水問題に—ましてどこへ行っても水のたまってゐる下水でこれでは何十年経つてもハエを駆除することおできなない。これについて市当局はどういうお考えを持つておら

れるかその点についてお伺いしたいと思います。
市長(田村利男君)お答えいたします。

旧市内の下水道の問題につきましては過去三
三年におきましても相当な倒溝工事ならぬに
道路工事をやゝてきたわけでございますがなお
こんどもそういう個所のあり次第実行に移す考
えであります。焼却炉の問題につきましては正
代の市長が十数年かゝつてなお解決できないほど
やはり相当困難な問題でございますので市とい
ふ――ましてはいまの財政状態においてはできる
だけ市民に迷惑がかからないように努力している
のが現状で来年度の計画でございます。

避病者の問題につきましては調理室などの腐巧が
ございますが今年ではできるだけ早く隣村との避病

舎の新築計画、梶の加藤衛生部長も全面的に賛成
 してくれておられますので、これが実現を期しな
 救急者の問題もなるべく実行に移したいと思う
 わけでございますが、差当りて調理室の問題が早
 急に残るわけでございますが、市に破修理の責
 任もございまして、御希望に添うよう修理いた
 したいと存ずる次第でございます。

○九番(黒川佐太郎君)消防費の研修費についてお尋ね
 ます。消防施設の重要性は私がここに贅言するま
 でもありませんが、市川に次ぎ人口稠密な地区に住
 居してあるものといえ、まして消防分遣所の設置
 につきまして非常に力強く感じました。日夜營々
 して職務遂行する分遣所に対し、まして深慮なる
 謝意を表するものであります。ところで消防の機

能は機械力と相違して職員への質の向上ということが重大な問題であろうかと思うのであります。一からに職員一人が月にたばこひとつ買ふことのできない研修費ではその目的は到底達し得ないんじゃないか。やはり先進地区をよく視察する。そうして技術知識の向上を図るということが重要な消防の費用としては要素でなからうかと思うのであります。これにつきまして当局はどういうお考えであるか。この点をお尋ねします。

市長(田村利男君)消防署に対する感謝に対するお言葉に誠にありがたく頂戴するわけでございます。この研修費はちうと御質問と違い東京の消防大学へ署員が一ヶ月位行く費用でございます。また署員の質につきましてはおかげをもちま

して館山市はいつも県下トップを切るような好成績をあげておりましていつの大会でも一等あるいは二等をとって参ります。また一昨日自衛隊の司令から市長に向つて安藤署長以下数名を何日か派遣して消防訓練を若い自衛隊の兵隊に教えてくれというくらいに自慢でございしますが自衛隊でかなわないところがあるので教授してもらいたいというくらいに非常にわが館山市消防署員はよく少なき報酬でよく働いて訓練をつづけているようなわけでございます。従いまして消防員につきましては考慮してその質を高めたいと思う次第でございしますがなお詳細いことは安藤署長をもつて答弁させる次第でございます。

消防署長(安藤竜吉君)ただいまの研修打ち切り旅費
三万七千七百円についてお答え申し上げます。
これは千葉県下の消防職員を毎年一ヶ所に集
結いたしまして講習会を実施いたしております
して館山市からも毎年四、五名の職員を一ヶ月派
遣しております。この費用が一人当り七千五百
四十四円、これを本年は五人派遣いたしたいと
思いましてここに計上した次第でございます。
この七千五百四十四円の内訳と申しますと講習
費これが一人三千円とわれます。その他本代が
約二千円位雑費等入れました。一人七千五百四十
円というふうに計算した次第でございます。
予算が許しますなら、多くの職員を派
遣いたしましてこの講習会に参加したいとか

ように考へてゐる次第でございます。

一九番(黒川佐太郎君) 私が予算の内容をよく存じないで旅費で打切ということになつておりますので大勢の人が行くのかとこゝろをうふうに考へておつたのであります。大体わかりました希望を甲上げらるゝらばやはりでさるだけ大勢の人をこゝろにいゝた機関で養成する方向におねがいしたいものと思つております。了解いたしました。

三番(伊勢仙之助君) 六つご質問申上げます。

まず最初に総務課長さんで結構ですが市の広報費の三十三万七千の問題ですがこれは二ページと四ページを交互に発行なすといふ予算説明であつたんですが四ページになつた場合に市の議会で決定されましたことを市民に具体的に必ず

か—い言葉を使わないでわかりやすくもちろ
ん討議の内容などについてはその人の考え方で
一部の議員は有利になり不利になるデリケー
トな場合が生じてますから決定されたような
問題さなるべく多く掲載して議会というものは
こういうものを決定しているということさ市民
に知らせていただく事を私は要望—たいんであ
りますがこの点について各市の状況をみます
と市会情報というようなものを市民全部に配
布—ている市もあります。そういう点からい
て市会の内容がどういうものが決められたとい
う点だけでも知ら—めれば生まてくるのではな
いかと思ひます。これに対する課長さんの編集上の
方針を承りたいと思ひます。

オニ臭ふん尿処理の問題ですが、甲学校のふん尿処理これは市内各地で困っておりまして、こんどの予算でも、甲学校二十万円、甲学校十万円という処理費がでてあるんですが、この予算だけでは解決できない問題でありまして、これは一連の処理施設を市自体で自動車を購入するなり、池を作るなりして処理するようになって、各学校で困ってPTAのいろいろ頼んで、処理費、て金のないところはPTAが出してふん尿処理をするというふうな問題が相当あるんですが、この点についてなんらかの対策を講じてるお考えがありますか、どうか。

三 臭と一、まして体育関係ですが、館山市には、承知の通り、市営の野球場がひとつもありません。

これは観光関係からいいましても職業野球の
冬期練習大学の選手いろいろくるんですが、
市には野球場がなくて紹介がきてもだめなんで
また一般のレクレーションで社会人が野球さう
とりてもやれないというふうな場合があるわけ
です。池貝にひとつあります。がひとつでは数十団体の
チームがあります。以上困っている。青少年の健全な
体育の向上という面から、そういう施設がひとつも
ないということとは文化都市としての体面上おはす
かーい。んであります。これからの建設に将来どのよ
うに考えて、な、てあります。かこの点をお聞き
したいと思えます。

それから次に毎年行われます文化祭の問題であり
ます。がこれは、熊山市全般的に開催します。ので

いつも費用の問題でいろいろ支障がでてゐるんですが今年度は総額どのくらいを予定されておられますのかこの点をお聞きたいと思ひます。

次に精薄児の特殊学級の問題であります。私たちが文教委員会として、まして国西地方に精薄児の特殊学級というふうなものを視察した事があります。が釧路市としても厚生関係で手をつなぐ母親の会とか、そういうもので予算上措置してあります。すが精薄児の親達の考え方が、そういうものを委員会の方として掌握されてゐるか、わかりませんが、いゝとつ精薄児の特殊学級をそろそろつくつてゐるだいてもいいんじゃないかと考えております。すがこの問題について委員会では、いままでどういふふうな御討議がなされてきたか、将来に對し

てどういふうな考え方を持っておりですか。
お尋ねしたいと思います。

さうにもう一突といふ――まして旧市内における社会教育活動をどう推進するかという問題であります。まず旧市内と市外とではいろいろ問題がありまして青年学級公民館活動こういうものは主として農村地帯に多いんです。が勤労者大衆の市内地におけるところの社会教育の活動というものが非常に組織的になつておらない。年間を通じてみましてもほとんどさういふ活動らしいものがみえないわけなんです。このままですら――社会人の教育というものが完全に行くかどうか根本的な問題が解決されていらないので旧態依然として社会教育の活動と

いうものが河市内においては進んでいないとい
う面がみられますので委員会として河市内
におけるところの社会教育活動をとんどどう
いうふうに推進するかこの点について教育長
さんのご見解を承りたいと思います。以上であ
ります。

○市長田村利男君 教育長に属するもの、うちでござ
います。が、^{ふん}尿問題と運動場の問題について甲上
げます。一尿問題の根本的対策を実施いたし
ますと最低四千万 規模のごく小さいもので四十
万円かゝるような見積りを持っております。
一尿問題を取扱いますと三分の二国庫補助
がありますので三分の一でまかなえるわけで
ございますがそれとて一千五百万円以上のもの

が予定されますので、当市の現在の状態ではいま
一ぱうく研究する。こういう形でございます。
そういうわけでありまして、差当、ての、中
学校の一、床問題はただいま業者を、て、や、
ていた、ござますが、更に研究いたしまして必要
があれば、市営汲取というようない、なものでも
や、た、方が、いいかと思ひます。が、こんご研究一
たいと思ひ、次、オで、ございます。

総合運動場あるいは野球場の問題ですが、去年
の夏から秋にかけてこの問題の候補地をいろいろ
ろ、物色いたしまして、現地へ行、て、いろく、エ地の
様子を見学一あるいは視察一まして、研究いた
しまして、た、わけでござい、ますが、地主関係との協定
が、でき、ませんので、いま一ぱうく足踏み状態、で、ご

ございます。なおテニスコートバレーボールなど先般甲村
代議士に会いましたときに甲村児童公園の隣り
へ七百坪の考古館ですか、いうものを運てる気
持があるつでその脇の敷地あたりが適当じゃない
かというふうなことを話合、た事もあります。が
まだ確定的に相談したわけでもございしません。
そういうわけで実施にいたらないことを誠に
遺憾に存じますが、できるだけ早急に体育
設備を着々、鎌山市のものとして計画して行
きたいと努めます。でございす。

○秘書課長（山谷穂君）三番議員からのオー問に答え
います。

広報編集についての御質問でございす。が議会
の有様等市政の運用につきましては一般に周

知させるといふことは広報発行の目的でもあり
ますのでこんごは議会事務局または各課の広
報資料担当者の方によく編集方針を話して
んど掲載いただきたいと思ひます。なお言葉の
便い方等につままりてはできるだけ一般の方
にわかりやすいような言葉を便ひたいと思
ひういふ気持ちであります。

。教育長（工藤和平君）教育関係のお答えをいたします。
最初に文化祭の費用の点でございますがこれは
前年度同様約二十万位で明年度もやってみら
ない。こういうのであります。多々無理な点があ
ろうかと思ひますけれども行事の調整その他
によつてこの予算内でまかなつてもらいたい希
望でございます。

市内の社教活動の件であります。これも小説のようによ都市ほど社会活動が活発でないという悩みを持ち、ているわけでございます。幸にして婦人会館の問題もありましたので婦人会館活動を中心にして、なおまた文化団体を推進母体として、こんご市内の社会教育団体の活動を一層活発ならしめて効果をあげたい。こういうふうな念願しております。

精薄見の取扱い方であります。これは本市としても将来の問題として十分考究したいと思っております。そのモデル校として船形小学校が昨年からこの研究に当っており、ますがその成果を十分研究いたしまして精薄見の取扱いを進めて行きたい。こう考えております。(休憩と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)しばらく休憩をいたしました。

午後二時十七分休憩

午後二時三十七分開議

議長(石井潔君)現在出席議員数三十二名休憩前に引続いて会議を開きます。

一八番(佐久間為次郎君)今朝ほかから熱心に不出の面をご審議なされたように思われますのでこの辺で不出の質疑を打ち切りたいだいで又へに移りたいと思いますすがお諮りをお願いします。

三五番(嶋田繁君)ひとつふたつあるんですが猶予を与えてもらいたいと思います。

議長(石井潔君)十八番さんに伺います。(結構です)と

呼ぶ者あり――ばうくこのまゝ、継行をいたします。

○三五番(嶋田 繁君) 三三の案について質問いたします。オ一番は教育の問題ですが教育の構成と甲―ますかいわゆる人事の交流それらは考慮―なければあといいいのがつかえて困ると思う―なおります。学校の職員構成が非常に沈滞―て―まゝ、て生氣が出ていない。これはむしろ県との関連性があります。が市は市として相当調^査いた―まゝ―て県と協カ―て推進―てもらいたい。異動あたりもどう考慮いた―まゝ―てある程度まで押切、て眞の人事交流をやゝて行かなくちゃ教育の振奮に不影響があるんじゃないかと考えます。もうひとつはふん尿ですがいまの質問にもです。たが旧市内はいざ知らず旧六ヶ村になります。

特に私のいる方は純漁村でありましてほかの由へ
持っていくことはできないんで困っておりまして
PTAの人達が四、五人ずつ海岸に持って行って
火を握っていきってくるというふうなわけでして
すると漁師の方が都合が出るというんで困っ
ておるんですが去年もそういうことを甲上げて
たんですがこれは教育委員会の方で処理して
もらうというふうなことにしていただきたい。

それから準保護児童のことなんですが私の方の
例を引ますと旧富崎地已あたりでは漁村で
すが深海漁業を営んでおり二百キロも三百キロも
糸を垂れてやるという意味においてたとえま
うはえ気が良くとも潮が早ければ糸が下へと
垂れない。そんなわけで一ヶ月の収入が三千円あ

ればいいほうだとこういうことを行つてある。——
 かも食うものがない。学校あたりの子供が非常
 にかわいそうなものが多い。分見受けられます。
 そういふ点からいふと少し積極的に困つてある
 準保護児童というものを助けてやつてもらいた
 い。こういうふうに考えます。

それと給食炊事婦の雇上げが六名でありますが
 すがどういふふうに割振つてあるか。

それから^運設について質問いたしたんですが学
 校に——ま——ても道路をやるに——ま——ても市内
 はいど知らずこれも遠くになりますと監督が
 全然こない。例えば道をやるに——ても監督が
 一回もこないで粗末な工事があつてゐる。こ
 れにつまりてはこんご考慮を払つてもらいた

い。こういうふうな考えであります。同時に
旧市街地と旧六ノ村ははなれておるんで政治
的にみても生活的にみても別格になつて交通
性が少ない。従つてこの道路に相当の思いをい
らして動脈を築き上げてもらうことに精一
ぱい努力してもらいたい。これらの点につま
づいて御意見をいただきたいと思います。

市長(田村利男君)最後の道路の問題お答え申上げます。
道路の問題につきましてでは県道の砂利なうべに
アスファルト問題につきまして事あるごとに県
会議員なうべに直接県と折衝してつい四五日前
も舗装道路の問題につきまして折衝いたしま
した。また砂利の問題につきまして常にな
県の土木課長に直接におねがいしているよう

なわけでございますので遠からず御期待に添
いたいと思つております。

また四六ノ村地区の小学校ふん尿問題ですば
なお実情をよく調査させていたゞきたいと存じ
ます。

。教育長(工藤 和平君)教員構成という問題でござい
ます。これはお説の通り教育のことではな、ま
ようするに人間の向題でありますので適材は
適所に配いて教育効果をあげるということが
万人の望むところでありわれ／＼のも、とも
多く念願としてゐるところであります。いろい
ろな違ひにぶつかつてゐるわけでございます。こん
ごわれ／＼の念願のかなうようなでざるだけ手
配をするつもりでございます。

秋季庶務課長(鶴沢貴寛君)給食炊事婦でございます
が現在給食実施校が館山富崎豊房の三校でござい
ます。現在は館山が二名豊房一名富崎は事務局の
職員が向うへ行つてゐる状況でございます。が三
十三年度はこの三校に一名ずつ増員したいといふ
のでございます。
それから準保護児童の扶助費でございます。がこ
れもお仰せの通り実情を調査いたしまして準
保護児童の数が多ければ実情に即しまして
増額をおねがいしたいといふ考えでござ
います。

○三四番(飯田義男君)四十九ページの三十二節でございます
がここに負担金として全国市長会負担金八万
二千円 関東市長会四千円 県下市長会一万八千

八百円と載つておりますけれどもこの三つの市長
 会が必要があるかどうかこの三つの市長会の性
 格とこの市長会の予算内容を大体で結構です
 が同時にどういう活動をしてゐるかお伺い
 たい。

○市長(田村利男君)従来は各市とも市長会のほか議
 長会、監査委員会はもちろんでございますがその
 他に助役会、課長会、収入役会、そういう各負担金
 を持つておりまして、これらを統合して市長
 会の形に直したような現在の形であります。
 性格と申しますか、各市は共通の問題を持合
 せているわけでございます。そういうものを
 市長会は三月に一遍千葉市役所におきま
 して各市の市長が集まりまして協議いたしま

― 凡ものを例えれば地方交付金の問題 特別交付金の少ないというような問題あるいは自衛隊の所有地への特別交付金というような問題等いろいろな案件を持寄りまして国ならぬに県へ要請するものは県市長会の名において要請いたります― また国への問題は関東市長会へ持込みまして関東市長会から全国市長会というところと六者会議六者と申しますと県会議長 県知事 市会議長 市長 町村議長 町村長会 というのさかどつに― ぼつて甲斐にぶつかる策戦のいひとつと申しますか そういうようなものに― て政治的にも用いているようなわけでございます。

三四番(飯田義男君) 大体わかるんですが内容をみます

と県下の市長がいろいろ連絡事項もありまう、うにいろいろ陳情もなくちゃいかぬということがあるでしょうけど、全国市長会が八万二千というふうな負担金をとってな——ているかという問題なんです。がこれをい——つて聞きたい。

○市長(田村利男君) 何をしてるかといいますと一言にいえませんがやはり市長会、雖に事務局を設けまして国の相当大きな施策を直してぶつかっていることは事実でございます。

○三四番(飯田義男君) 全国市長会が働いたためにこういう問題がこうな、なという具体的なところ、いいから例はございしませんで。

○市長(田村利男君) 交付税の値上げの問題はは、まり全国市長会の名において獲得したものでございます。

九番(安西政治君)ニ三質問させていたでございます。

五十七ページごの消防費関係でございますが工事請負費のうちこれは貯水地などを作るとござっておりますがどこという大体の目安をつけて予算を組んだものでありますかどうか。さうにさういふた物に対して工事の技術指導とか監督とかいふものはどんなふうになつております。うか。これは先ほどエー三番議員が学校建築関係についていろいろ尋ねられました。ところがこういう技術行政と申しますか監督が行きとどかずには事故が起つてゐるふうにも聞いております。

つゞは六十三ページごの街灯費の件でございますが、その市にあります。ては街灯費というものはあまり盛られていないという建設課長さ

んの御答弁を先ほど聞きました。ところが、館山市にありましては非常に市街地にありましては、そういふ、たものはあるいは商店街などの負担によつても結構じゃないかと思つてございまして、いわゆる郊外地にありましては防犯灯というふうなものを市から補助してもらつてあるというふうなことで非常に長ばれてあるのでございます。従いまして、こうした防犯灯が非常に功を奏するのではないかと思つて、増えまして、こういふものがこの予算書を見ますと、少し増になつてゐるようでございますが、この増は、さういふ、た意味の増でありますかどうか、それを伺ひたいと思います。

次に教育関係のことでございますが、これは計上は

ございせんが先ほど来かう危険校舎の解消も
目の前に迫っているというような答弁を聞いてお
りますのです。が本年度の学校卒業業者の就職状
態をみますと工業関係へ就職した子供が多いよ
うに思います。こういふ点でいいますとすぐでき
ると思います。せんが館高などに工業課の設置と
いうような考慮を払つてもいいのじゃないか
と思つております。がこういふ点でいいますと
て教育行政の担当者ないしは市長さんのご意
見をお伺いしたいと思ひます。

市長(田村利男君) 館山高専学校へ工業課併置の
問題でございす。がこの問題はかねてから私
も研究している問題でございまして先般も
卒業式の時に可生本議員なういふ校長とも

いろいろ設置した場合の設置費用その経営方法について考えられたわけでございますが結論として置いた方が非常によろしいという存てんのご意見でございます。但しこれをあぐらめには最低五千万円の機械器具の購入を条件と一なければ工業課設置は不可能であるという結論を得ましたので市長は行悩んでいるわけでございます。将来五千万円あるいは三、四千万円の費用の財源の獲得がござりました場合には大いに考慮されると思ひます。(ぜひそういうことを望みますと呼ぶ者あり)

○総務課長(兎戸 貴君)カー同の消防の工事請負費についてお答え申し上げます。

これは大崎野水地の工事費が百六十二万円それから

車庫等の二十五万坪ということになつてお
ります。この野水池の設置箇所は予定して
ございます。これはできる限り市内の各地に
貯水地を設けて初期防火の万全を期したい
というもとに三十三年度は三百石入りと二百
石入りと川留め等をやりましてまた横穴式
等でいく僅少な費用でいかにも十分なる効果
を発揮するものはそういう施設にしたいとい
う考えのもとに四通りの計画をしてございま
す。それによらず三百石の野水池でございま
す。これは一応ニヶ所といふよりまして高崎
の神田町でござ
います。がここ一ヶ所、それから北条地
区の高
井地区へ一ヶ所かういふうな予定を持
つてあり
ます。それから二百石入りの野水池で
ございます。

これは六ヶ所作りたいと考えております

九重菰郡落神戸の布沼地区西岬の西川名地区新
 塩場地区ハ幡地区と那古地区この六ヶ所でございま
 す。川留めの野水地の十ヶ所を予定してございま
 す。これは神余の山下というところと西長田長
 須賀、笠名、大石、香、坂田、小沼、洲宮と藤原の川、
 ういう予定を樹てございます。横穴式の野水地
 は稲と田辺地区でございますがこれにつぎま
 ては消防関係者で真地に検討いたして三
 十三年度としてこれをも、とも緊急であるとい
 うふうには調査をした結果これだけはぜひや
 りたい。なおこのほかにも多々野水地を設置す
 る場所がございますが現在の財政状態では消防
 費のみに多くをとるといふわけにも参りませ

のでこのように計画いたしております。

。九番(安西政治君)ちよと消防関係に関連性がございますのでおねがいしたいんですが、そういう、いろいろなものをつくる場合技術指導とか監督というようなものはどうゆう姿でやっておるんですか。教育委員会にありましては何人かの技術屋があるようにございしますが消防関係にありましてはどんな状態でございしますか。伺います。

。総務課長(克戸貴君)技術指導でございしますが従来は地えから二分の一の支出と市から二分の一の支出ということでございしますが主として地えに負担してもらってやらせたのでございしますが、明年度は全額これを地えから二分の一の寄付を受けまして

市でやりたいという関係をもちますのでこの設置につきましてはある程度請負いをしていただいた。こういうふうに考えております。もともと地えでこの仕事を請負うというような場合には地えでやらせますがそういう場合でも大休地えに大工とかコンクリート打ちとか技術者もおりますので技術面につきまして時は時折監督の程度で設計通りのものがでるんではないか。こういうふうな考えであります。つまり、監督するということはないと考えております。九番(安西政治君) そうですね、た設計図そうですね、たようなものはどこでやりますかということをお伺いするわけでございまして更に監督を毎日つらつとやりという意味でなくて工事の狀態に

がどんなであるかという程度の質問でございます。

○総務課長(完戸員君)貯水地等の設計は専門的技術と知識を要します。ので一番はじめの設計は建設課に依頼いたしまして設計をいたします。それによりまして必要な材料等も必要な数量が出てくるわけでございます。それから監督でございしますがこれはコンクリートのワケを入れたときとかあるいはコンクリートの工塗りをおかけたときとかそういうような場合にこちらから参りまして監督指示をいたしております。(了承—ま—たと呼ぶ者あり)

○建設課長(新开重助君)街灯費についてお答えいたします。

街灯費は私の方はあくまで道路の交通あるいは公共物の照明をいたすために使つてあるのでございまして一般の防犯上その他についてはただいま聞くところによりますと防犯協力会において相当施設をしてあるとかように聞いておりますので防犯上の方の電灯電カまでは手が回らないと考えております。

○九番(安西政老君)防犯灯に對しまして過去におきましては各地区へ割當が防犯協会からございまして例えばある地区には何灯つけてよいかその維持費は防犯協力会で持つ。ただし適当な時期には市へ移管するといふような姿で防犯灯といふものがつけられたやうでございしますが、こゝに、たゞうにこんなことはできないといふ意味でございまして、う

か。その点明確にわがいとうございます。でも
るならば従来、もうにもう少し防犯灯をふ
やして、いいという結論でございます。

建設課長(新井重助君)防犯協会のひとつの団体で
ございまして、その団体がつける防犯の街灯で
ございしますが、これを市に移管するという前
提のもとにつけるということとは聞いておりま
せん。以上でございます。

ニ七番(鈴木孝君)私は消防と都市計画の二つにつ
いてお伺いしたいと思っております。

消防の旅費であります。消防署の旅費と団
体の旅費がございしますが、消防署の旅費は普通
旅費となっており、すのが三万二千三百円先
ほど十九番議員から研究打ち切り旅費という

ことはよくわかりましたがこの内訳とその他の旅費の内訳を課長さんにお伺いしたいと思ひます。

。総務課長（兒戸 貴君）お答えいたします。

五十二ページにございますが消防署の旅費は七万円でございしますがこれは先ほど署長の方からお答えいたしまして通り三万七千七百円が長期研修の打切り旅費でございまして三万二千三百円が普通旅費でございします。この普通旅費は署員が千葉その他へ出張するに要するものでございまして月平均二千七百円として十二月分を計上いたしましたものでございます。それから消防団の旅費でございしますが旅費として六十万七千円計上してございます。この内

設は予算の付記でお説の通り消防災害出動関係
費用弁償とかその他いろいろになつております
すがこれは非常勤の消防団員に對しては条
例に基くと費用^弁償として出さなければいけ
ない。こういうことになつていますのでこれ
は消防団条例の別表の二号表によつて支出し
ようとするものでございしますがその他の費用
弁償というのは三万四千円計上してございま
す。これは現在館山市の消防施設が着々と改
善されてまいつて少なくとも県下におさまるに
も施設の点では優秀な方ではないかと考えて
おりますがこの原因は消防団の幹部が県下に
視察をいたしてまいつて熱心に他の長所をみてきて
それをこの市の消防団に採入れようという努

力をぬ、た結果でございまして、そのため旅費と
いいますのは県下の打切り視察旅費の経費で
ございまして（了解いたしまして）と呼ぶ者あり
一人五千円で五人分二万五千円とそれから消防
大会等の出張旅費などを計上したものでござい
ます。

○ニ七番（鈴木孝君）いまして、これは都市計画についてお
伺いしたいんですが、これは昨日十番議員さん
からもでておりますが、もうもう、細かい点は
除いていただきますが、昭和三十一年に都市計
画税がはじめて市で施行された。この都市計
画税が好むと好まざるとによつて、鎌山市の
赤字財政という、私もとらなざるという、
というふうに私は記憶しておりますので、そ

うーた意味合いにおいてわれくも賛成ーた
のであります。が、実際はどこから指令が出た
か、お伺いーたいんです。が、農村とか、農漁村あた
りは都市計画税とられるというところについ
ては不平があるように思われます。が、こーうい
うのときの上司からうきた書類が古いことであ
ります。すけれどもあると思ひます。からあきか
せをわがいたい。できるならば都市計画税は
廃ーていただきたいというふうな考えです。
この御答弁をわがいたい。

。税務第一課長（山口 貞君）都市計画税は目的税とい
たーまーては課税の客体のこと、存じます。す
が、その件につきまーては地方税法の七百二条に
ありまーてその都市計画法にありまーて受

益地已の福祉につかう。こういう趣旨のもとに行われたのであります。

○ニ七番(鈴木 孝君)三十一年度にそうして館山市の条例をつくつたんじゃないですか。

○税務第一課長(山口 実君)もちろん都市計画税の徴収の方法といふ――そして七百二条によりましてただいまの条例が三十一年につくられたわけでございます。

○ニ七番(鈴木 孝君)それを作らなくても本当はよく、たと思われれますが税をとるためにつくつたというように私は解釈――ますすがその時上司からの好むと好まざるとによつてどうしてもとらなまやいけないというように私は解釈して賛成を――したのでありますすが――

べ私は農村地帯、漁村地帯の方は非常に多いと思つていますので参考になるような上司からの書物がある、たうんと読んでいただきたいと思つております。

○議長(石井 潔君)ニ七番議員のご質問への面へ移ります。――から答弁させるようにいたします。(了解――)「議事進行」と呼ぶ者あり)

○三番(田中忠蔵君)へについてさう、と市長さんに申上げます。いま国は農村、漁村の振興計画を樹てて国としては相当の予算が盛られてるわけですのでいまするが市はどうお考えですか。

○市長(田村利男君)盛つてございます。

○議長(石井 潔君)お諮りいたします。先ほど十八番議員から予算の支出に対する質疑を打切つて

オへへ移りたいという動議がでておりますん
ですがこの動議に御異議ございせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井 潔君)それではオエの面の打切りをいたし
ます。

次いでオへの質疑に入ります。

○三四番 飯田義男君 オ一款の市税でございます。

現在国におきましては一千億減税ということ
最近所得税が非常に減っておりまして、
が、この市税をみますと、かえって増徴されて
おるようでございます。もちろん市の状態によ
っていろいろと考え方もあるかと思いますが、
けれどもやはり鑑山市も黒字になつて、現在
この減税に因りて市長さんは相当深刻に考え

なければならぬと思います。要約して賛同
甲上げます。この市税を市長さんはごく最近
減税をする意志がありやいなや。もしあると
するならばいつであるか。ないとするならばど
ういう理由で減税しないか。これをお伺いしま
す。

市長(田村利男君)市税がふえておる莫は自然増収の
増加とござ承わべいと思います。

次に減税の問題でございます。が現在籠山市をま
かな、ていく場合に現在くらいの一級収入がな
ければや、ていけないように存じます。ので当分
現状維持で行きたいと思ひます。

三四番(飯田義男君)もちろん自然増収があることは
わか、てあるけれども、かゝる市況が

納めるふところ具合は以前と同じでござい
す。従つて市長のいまのお答えでは現在の現
況では減税する意志がないということござ
います。バーからば減税しないからにはそれだ
けの館山市発展の大計画に使うんだというは
、そりとした方針がなければいかんと思いま
す。かくといふようですがもう一ぺん減税を
いのはこういうわけだということも簡単に御
発表をお願いします。

○市長(田村利男君) 国象における減税の点につ
まゝして館山市民個々の場合を考えまゝな場
合にはかなり減税が行つておると思ひます。
バーながら館山市全体の文入という点から
みますと先ほど申し上げました自然増という点

場かう上ぶ、ているわけでございますが、
山市のような特別支出のない市におきま
してはただいま提出いたしまして、
に、め、た程度の仕事を執行するにつきま
しても精一ぱいのところでございまして、
ご特別な大事業をするというまで手がまわ
らないのでございます。例えて申しますなう
ば五千円かけて、尿処理場をつくりたい意志
もありませんが到底そこまでおよばないとい
うのが実情でございます。

○三番(吉田勇名郎君)市民税のことについてお尋ねしま
す。

まず市民税の均等割でございしますが、一応所得税を
納めるような人たちは適確に税務所をお調べ

になればわかるという意味で私は間違いないと思ふんですが一般の均等割を納める人に対しては納税義務者の把握についてあまり打算的じゃないかと解釈するもので把握について現在行われている方法についてご説明ねがいたいと思います。それから木材引取税はご承知の通り戦後法によってへき村へき地の材木までも課税されるという事態に立いたっています。昭和三十一年度の予算と昭和三十一年度の決算によってみますとなんら努力もたような形跡もないと私は断定してやぶさかでないと思ふ信ずるものであります。

それが故に木材引取税に対しての課税対象をどう把握されているかこの点についてお尋ね

—たいと思います。

なおご参考までに本来ならば支出の面を勘案する前にお尋ねすべきでありまして、私が私たち市税の参考に資—たいと思うので、市民税の徴収分布状況をお示—わがいたいと思ひます。

。税務オ—課長（山口 戾君）吉田議員の御質問にお答え申し上げます。

オ—問といた—まして個人均等割の把握がどのように—ているかこの問題につき—て申し上げます。ただいまの計画といた—ましては市の職員行政に担当者を使い—て当課よりいろいろ調査事項を示—まして近く調査にかかるとな—ております。

オニ向といふ――まゝで木材引取税の客體を把握するのとは、承知の通り非常に困難を要した。莫があるのではありません。なぜかといひますと税法では木材を切り倒して最初に引取る人が、申告の義務により――まゝで課税する。このやうになつてゐるのではありませんが、たゞいまの状況といふ――まゝでは木材を売却しても引取る人は申告してこないのではありません。この件につき――まゝで課税の方針といふ――まゝでは本年度は係を日に二回ない――三回二人廻にいた――まゝで木材の伐採状況を探知して巡回いた――まゝで引取者を発見いた――まゝでその上引取者の調査により――まゝで課税――やうとするものでございます。

○二番(吉田勇太郎君)オ三向は発表困難でーたら責
任をもつて後日個人的にでもいいからお聞きを
べえれば結構です。

○税務オ一課長(山口 実君)オ三向でございますが先日吉
田議員より問題が私の方に提出されましたが本
年度はまた各地区ごとの税負担そういう統計資
料はできていませんので一応統計資料が完成し
たあかつきには答弁いたします。

○二番(萩生田七郎君)市長さん大分おつかれのようですね
縮ですばー(笑声)自転車荷車税は一応廃止に決定
してあり市役所では自転車鑑札の必要はないん
でありますすがその実をい、まう。

○税務オ一課長(山口 実君)萩生田議員にお答え申上げ
ます。

新聞紙上に自乗車荷車税の廃止が早く報道
されたのでございまして、この点につまづい
て県地方課より四月一日より廃止となる。こ
の程度の通知でございまして将来これに変わる
べき懸念とかそういう件につまづいては、貢
にある回答がただいま参つておりません。以上
です。

○ニ 番(森生田七郎君)わかりました。その当局の態度
はわかるんですが、現^{の町議}実として四月一日あつすところ
わづかでありまして、なくなるといふ。こ
に約三百五十九万円計上してある。実際には
約二百五十万円の収入減になる。そうして、場
合に果敢な数字を要求してあるという結果
になるんじゃないかと思うんですが、この審議

する必要のない数字を羅列して審議してくれという形がいいか悪いのか市長さんにご答弁をおねがいいたします。

市長(田村利男君)まだ県で決定しておりません。ものは従来通りの数字を予算として計上してわけでございます。

三番(萩生田七郎君)私のいうのは決定版じゃないですか。四月一日から実行するということも放送もされ新聞にも報道されてある。そういう現状を無視していかには当局から指令がないといつても架空の数字をわれくに審議を要求するということには私はいくかと思うんですが。

市長(田村利男君)そういうことはできません。

ます。詳しくは助役が説明します。

。助役（いせ武男君）救生田議員さんのご意見は、もと
もでございます。私もも予算編成のときにこ
れが決定までに変うないかということに非常に
心配をしておる。たんであります。が普通こうい
う場合の措置としましてはやはり現行で行
くというのが常識になつておるんであります
。といわゆる法律が変ればそれに従つて更
生の方法を樹てるんでございまして、ただ方
法においてはいま申します通りですが、一
法律が成立しないものを市が先走つて提
案をするわけには行かないんで一応現行で行
つて法律が出来れば更生をいたしたい。か
ように考えるべきでございします。

一七番(嶋貫正作君)例によりまして比較研究する
必要がありましてので三十二年度に入、石金の
類入るべき金の類を公表わがいたいと思ひ
ます。ご面倒かけてすいませんがおねがいしま
す。

議長(石井 潔君)ただいま配布をします。

(書記配布)

(休憩わがいますと呼ぶ者あり)

議長(石井 潔君)しばらく休憩いたします。

午後三時五十五分休憩

午後四時 五分開議

議長(石井 潔君)休憩前に引続いて会議を開きます。

一七番(鳩貫壮作君)これ一通り了承りましたがまだかーいとおいでになる実があるじゃないか
と思います。(笑声)

そちらでは別段かーい賤源といいますか何
があつてもかれこれいうわけじゃないのでた
だ議員の心得として知つておろなければな
らないからお尋ねするんであります。そ
れなのになおかつかーいとおいでになるよう
な傾向があつて誠に残念に思います。もう一
べん各項目について説明をわがいます。

○総務課長(兎戸 貴君)これは大体三十二年度に(その
説明はいいから各項目ごとに説明して下さい)
と呼ぶ者あり)市税は別表にございしますが(「別
表なんていわないでちゃんとやつてくれないま
や困る

』と呼ぶ者あり)二月末までにこの表でござるの通り(表はあてにーませんからちゃんとやって下さい)と呼ぶ者あり)一億八百七十八万六千円これに収入になつております。(何の収入ですと呼ぶ者あり)市税として収入になつた額(市税を細かく分類してやつて下さい)と呼ぶ者あり)市民税の二月末収入額は二千五百五十万一千円でございます。それから三月から五月までの収入見込みとして五百六十六万二千円でございます。これは固定資産税であります(過年度分と呼ぶ者あり)

。税務オニ課長(伊藤幸太郎)君)市税について申し上げます。

二枚目につづつてございしますが一応ご覧になります。(この表をあてにーない。ちゃんとやって下さいと呼ぶ者あり)数字を申上げたいと思ひます。

(過年度分からや、てくれ給え、市民税の過年度分の徴収した額見込みの額くれさい、てくれればいい、それから滞納繰越分の徴収額と見込額さい、てくれ、ばいいこ、ちは比較研究するんだからこの項目に従、てや、ていただきたいと呼ぶ者あり) 過年度分現年度分滞納繰越分の内訳は資料が手許にございせん、早速取寄せたいと思ひますので、ばらくご猶了わがいます。(取寄せてきてくれたまえ、それは抜きにして固定資産税をおわぬ、いま、と呼ぶ者あり) 市税につきましては全部を払い、甲上げて通りでございす、(税金はあと一回、にてそのまゝや、ていた、てゝます。

。総務課長(克戸 貴君) 地方交付税は二月末まで收
入になりまーたものが四千八百四十八万六
千円でございます。こんご三月以降収入にな
るものとーして七十万円を(その七十万円がぼく
にはふに落ちないんだ)百万円と見積、てあ
つたのがなせ七十万円にするんだか百万円
なら百万円でいいじゃないか」と呼ぶ者あり)
特別交付税はまだ決定にな、ておりません(「決
定にな、ていないというけど見込みを聞いてい
るんだから」と呼ぶ者あり) そのうは百万円位あ
るかと思いまーたが現在では七十万円位では
ないか(「七十万とーたり百万にーたりーた基
礎がどこにあるか」と呼ぶ者あり) 基礎はあり
ません。(「なければ百万円でいいじゃないか。百万

で発表—たものさ百万円をや、てくれた、ていいじゃないか。それを七十万にする根性が気に入らない」と呼ぶ者あり)

○三番(伊勢仙之助君)議事進行について議会の運営という点についてもう少ルールに乗せてや、ていただまいと思ひます。

○七番(嶋貫壮作君)ルールに乗、てると思、ております。別に私が疑問の点をお尋ね—ていらんであ、てルールにはずれたとは思、ておりません。

○三番(伊勢仙之助君)討論が一問一答式で課長と議員の問で適当に発言—合、て進んでおるといふうな形にわれ—にとれるんひすがやはり議長というものがおります関係上発言その他回答そういうものはすべて議長さんの

いろくな取計らいによつて進めていゝ方か
議会としてのもう一つではないかとわれ／＼は
考えるんですが（よろ／＼うございます。議長さ
んにいぢ／＼許可を受けてやりますからどう
ぞ」と呼ぶ者あり）

二七番（嶋貫壮作君）宛戸課長はさうさう百万円に見
積ゝておりながらさうさう七十万円に見積ゝた
基礎いかん。

〇 総務課長（宛戸貴君）昨日は百万位収入があるだろ
うと考える／＼だがいろ／＼計算をして参り
ました途中において百万円は多すぎるんじゃない
かという気がする／＼さうさうで七十万に
いた／＼次でございます。

〇 二七番（嶋貫壮作君）だからさうさう七十万に／＼君の気持

それを聞いてるんだ。

○総務課長(兎戸 貴君) ただいま七十万に——た気持ちについてはお話を甲上げま——た通りでそのほかにはございません。

○一七番(嶋貫 壮作君) 気持ちと——てはほかにありますせんというけれども、そのう百万に見積、ておまなばうまう七十万円に見積らなければならぬい気持ちと——ておこ——たんだか。

○総務課長(兎戸 貴君) 追加予算にはこの特別交付税は五十万と計上いた——てございしますが百万円ではあまり多いんではないか五十万までみなければわからぬいけれども五十万円よりくるんではないかというような考えで七十万といた——ま——たのでこの交付税がまだ決定になりますせん

がもー決定になればあるいは百万か百五十万か
それはわかりませんので一応見込みとーては
七十万といふに次才です。

○七番(鳩貫壮作君)その百万を七十万にする基礎が
ほかの方へ移っていく、ほかの方もそうやってや
る。それが気に入らない。だからいち／＼細かく
質問して……。

○市長(田村利男君)総務課長においてはなるべく健全財政の立場をとりますーて内輪に見積、たと了承
しますのてござ承ねがいたいと思います。

○七番(鳩貫壮作君)健全財政とか健全財政でないとか
いうことはないと思います。ただ見込みの話を
聞いているんですから百万に見積、たものは
百万に見積、てあ、て下す、てち、とも差支

えないと思います。入、てくべきものは百万円以下であるか百万円以上であるかわからないんでありますから。

。初送（いし武男君）にだいまの特別交付税のことです。が私交渉に行、たを驗がございましてのでいと言ご参考までに話をさせていたでます。

はい。特別交付税は館山市にいてはこれに該當する件いわゆる災害が主としてこれに該當するんでございましてが本年度においては災害がないんで地方課の査定ではた一か六十五万円ですか記憶がは、まりーません。そのくういの類ーか出ないんだろ、うかといふのとつのみつもりですがあ、たんです。それいろいろ交渉ーまーていろいろな資料を

整えましてうまくいけばもうちょっとふえや
ーないかということをそれからいろいろ
いろ運動ーましていま手配をーてあるんで
すがいまのところ決定ーていないという実
情でございまして普通ならば二百万月くらい
私どももううとこなんでございしますがいま甲
ーますように運動ーしていく分でもふやーた
いという段階でございしますので総務課長も
頭を痛めているところと思ひます。事実こ
れは不確定なものでございまして本当に見
込みでございしますので参考に甲上げます。
○一七番(嶋貫壮作君)あなただのあーやることはわか
りまして。ただーいまは書記から聞いた
ところによりますと四十万月大体予定ーて

いるんだとあなただの方はそれを少くも
らおうということにな、てるというどの位を
信じていいんだかわからない。私というのは
百万円に見積、た、て七十万円に見積、た、
て三十万円違いだ。大したことはないです。そ
れと百万に見積、た、たものさ七十万に見積ら
れるということが心外なんだ。そういうふう
な精神でやられたんでは私がせ、か、この支
入の面を把握して予算に臨みたいという気持
がまだにな、て、もう。それだから申上げる
んであ、て別に他意ありません。議事の進行
の妨げにな、ても困りますから次の事を、ご発
表をお願いします。

。総務課長(兎 戸 貢 君)特別交付税の収入見込額をセ

十万とみまゝした。

それから公営企業および財産収入といふ
まゝではすむにたりまゝなものか七百四十
万四千円でございそうですがさらに三百四十
六万円の収入を見込んだ次でございす。これ
は託にあるので「七百いくらです」と呼ぶ者
あり三百四十六万（その前のだ、書くんだからゆ
くりいゝて下さい）と呼ぶ者あり）七百四十
一万四千円です。三月以降入る見込みが三百
四十六万円で、この内託につきまゝでは自
転車競走の収入を三百四十万とみまゝした。
それから土地売却代を百万円代その他で
六万というふうに見込みを^{した}まゝした。

次は分担金および負担金でございすが二月

未の収入済額は二百二十四万六千円でございます。
 こんどの収入見込みといはれては二十一万
 円を計上いたしまして。これは小団地開発整
 備事業の分担金の収入見込額でございます。
 次は使用料および手数料で二月までの収入に
 なりましてものは一千二百三十万円でござい
 まして三月以降の収入見込みといはれて
 百五十八万円を見込んだのでございます。これは
 大体授業料と保育料と住宅貸付料その他でござ
 いまして授業料として百万円保育料として
 五十万円住宅貸付料等が八万円として計算し
 た次第でございます。

国庫支出金は二月末までに収入が三千二十万円で
 ございます。そして三月以降の収入見込みといは

まゝしては一千百四十六万二千円と樹てまゝに。
これは生活保護その他の収入でございす。が
生活保護費等の関係の全費が四百六万九千
円それから都市計画等に関係する収入が
二百七十五万四千元、学校の補助金が百三十四万
八千円、新農村漁村対策費その他の補助金が
二百五十五万三千円、その他の少さいもの
が七十四万二千円、こういうふうなみた次でござ
います。

果の支出金は二月末までに収入されたものが九十
三万九千円でございす。それからこんどの収入
見込みといたしましては二百十六万一千円と計画
をいたしたのでございす。これは国庫^支出金と同
しく児童保護費、生活保護費その他の関係の

ものを見積ったものでございしますが、児童保護費といふ―――では四十万三千円、保護費の収入されるものとして二十万、水産関係のものといふ―――では六十万、結核予防費の関係として六十万、農林費の関係として二十万、統計調査費の関係費として九万八千円をみこんだものでございします。寄付金は二月末までの収入が三百九十三万一千円でございます。こんどの見通しとして百六十八万九千円を見込みました。これは一般寄付金その他でございしますが、三十五万円、土木寄付金で百三十万、その他いろいろをまとめ―――て三万九千円と見込んだ次第でございします。

繰越金は三十一年度の決算で承知の通り二十

百四十二万五千円 入に繰越されましてたが
れは繰越額全部を収入としてまいましてたの
でこんどの収入見込がございませぬ。

雑収入は六百六万九千円収入済でございまして
三月以降の収入見込みとしては五十万でござい
ます。これは保育費 保育措置費 延滞金等でご
ざいます。が保育措置費として入るだろうとみ
たものが二十五万円 延滞金で十七万円その他
集めまして八万円とみたのでございます。

市債はいま、で全然入りません。三月以降一
千万円収入になる見込みでございます。これは
見込みというよりも確定の数字でございます。
船形湊港の分が二百万円 館山小学校の起債
が四百万円 消防のポンプ起債が二百万円 西小

学校の改築に伴う起債が二百万円 以上が税外
 への見込みでございます。市税は次に担当課
 長から申し上げます。

。税務才ニ課長(伊藤幸太郎君)市税の収入につきます
 て申し上げたいと思います。

市税におきまして二月末^{現在}まで入りました総計額
 が一億八百七十八万八百五十一円これが二月末現
 在の収入でございます。内訳を申し上げますと市
 民税におきまして二千百五十万七千九百九十四
 円です。その内訳といたしまして現年度分一
 千九百一十六万七千七百六十六円 過年度分十四万六
 千五百七十四円 繰越分二百二十四万七千四百
 十九円以上三つの合計額が先ほど申し上げます
 市国民税の二千百五十万七千九百九十四円です。

次に固定資産税内訳といふところにて現年度
分が五千二百六十九千八百八十一円繰越分七百十
二万八千四百三十四円。以上合計の固定資産税が
五千九百十九万八千三百一十一円になつております。
次に自動車荷車税でございます。現年度分
が三百一十八万五千五百円繰越分が三十一万四千六
百十八円との合計が三百四十二万三千百十八円
でございます。たゞは消費税が現年度分ござ
います。一千四百五万四千七百円。次に電気ガス
税。現年度分七百五十二万七千六百六十六円。木
材引取税。現年度分で三万三千七百五十五円。繰越分
におきまして八千七百五十円。以上二つをもち
まして木材引取税が四万一千八百二十五円。次に
都市計画税。現年度分二百八十八万五千七百四十

五月繰越分にあきまゝして十九万八千九百四十
四月この合計にあきまゝして三百万四千六百八
十九万、旧法による税と一まゝして二万四千百
十三万以上の合計が二月末現在の収入総額一
億八百七十八万五千八十一万となつております。
次に三月以降五月の支納閉鎖までの収入見込
みでございます。この内訳を甲上げたいと思ひ
ます。

まず市民税でございます。現年度分四百九十五
万二千円、過年度分十二万円、滞納分を五十九万円
以上五百六十六万二千円を三月以降五月までの
見込みと考へております。

次に固定資産税現年度分を三百八十六万七千
円、それから滞納分を二百四十万以上を固定資

産税の五月までの収入見込みとみております。
次に自動車 荷車税でございますが現年度分を
九万八千滞納分と七万五千計十万三千円に
ば、消費税現年度分百五十八万八千円以下過
年度滞納でございます。電気ガス税百八十二
万五千円過年度滞納分はでございます。木材引
取税におきまして滞納分といふ――まして三千
円都市計画税でございますが現年度分を七十
三万七千円滞納分を九万円計八十二万九千円
入湯税 現年度分を一万三千円計一万三千円、旧
法によるものの滞納分六千円計六千円、以上
合計が二千六百三十六万四千円とれど三月以
降五月までの収入見込みとみております。
以上でございます。

○三番(福岡保徳君)又入でお聞きしますがこの外にこの前議長さんなんかのお骨折りで基地かなにか入、てくるというのはいつなんでしょうか。

○税務才一課長(山口 実君)福岡議員にお答え申し上げます。

基地交付税の關係でございしますがただいまのところやはり新聞によりまして報道されましてたんですが確實なる文書はまだないまのところ市にはまておりません。以上です。

○二番(嶋貫壮作君)さ、さ二十一番議員から出ましたのが廃止になる税目があるということと私も聞いております。何と何が廃止になるのかこれと承知していただんですが。

○税務才一課長(山口 実君)嶋貫議員にお答え申し上げます。

ます。

ハページをお開きねがいます。上から数え
まゝ三目の自転車荷車税をご覧ねがいます。
現年度分の三百十五万四千七百四十円、そ
の付記の欄の上から四つ残一として競争用
二輪車以下全部廃止になります。主は自
転車荷車、こういうもので動力を持たない
軽車両が廃止になります。以上です。

○七番(嶋谷貞作君)それからたばこ消費税が上
がるということとを聞いておりますが、実事
ですか、どうか。

○税務第一課長(山口実君)すでに新聞紙上で報道さ
れておりますが、二%上がるとか、そういうこと
を新聞でいってあります。ただいまのところ

王代法金も出ていない。王代明細は分けてあります。以上です。

議長(石井 梨君)——ばうく休憩いたします。

午後四時四十五分休憩

午後五時　　分開議

議長(石井 梨君)現在議員数二十九名 休憩前に引続いて会議を開きます。

ニ七番(鈴木 孝君)先ほど都市計画のことにつきまして質問してありますがお答えがありません。せんのでおねがいいたします。

総務課長(克戸 貴君)ニ七番議員にお答えいたします。現在都市計画税は目的税でございます。これ

はその市町村の意思によりまして課してたり賦課しなかつたり任意規定になつております。しかしながら現在鎌山市におきましては都市計画事業を実施しておりますのでこの都市計画を遂行していただきますには都市計画税をとらなければ運営が困難であると考えまして賦課してあります。がそういう関係でこの都市計画事業が実施されております間は廃止するつもりはございません。

○ニ七番(鈴木孝君) ただいまの課長さんのご答弁では都市計画を遂行するに鎌山市独自でこうしてつくつたというようない答弁でありまして私が三十一年度にそれを聞いたときに好むと好まざるによつてせがいでつくつたんじゃない

けないというように聞いておつたんですが、私の間違ひであるか都市計画税をとるのは仕方ありませんが農村町村はこれに直接恩恵を蒙つておりませんのでこんご市長さんといつたまゝで農村あるいは町村にこゝろを仕事と分担金条例が設けられており半額負担をしておりますがそうした場合と都市計画によつてつくつてくれる意思がありますかどうかお伺いいたしたいと思います。

○市長(田村利男君)都市計画税に代つて同じ費用を他の農村町村地帯に施行する計画はあるかどうかというご質問のようによ受取つてよろしうございますか(「そうです」と呼ぶ者あり)計数的なことはあとで課長から甲上げると思ひます。

が都市計画税があることにより、よりよいていま
まで農村地已に林道農道あるいは暗渠排水
等の工事費の前年まであるいははるかに上回、
た数字を農村地已へ使用したという数字が出
ておりますので発表させていただきます。

建設課長(新井重助君) 都市計画税についてご説明
いたします。 地方税法第七十二条に規定されて
おりますがその条文を読上げます。

市町村は都市計画法に基づいて都市計画事業ま
たは土地已画整理法に基づいて土地已画整理事業
に要する費用にあてるため……(山口君地
方税法七十二条をみて書文を書き入れて下さい)

この都市計画税の条例を設置する当市市会に

上程いたしましてたときに市部と郡部すなわ
 ち大ケ村の方にあたる農村方面に都市計画税
 をかけることはよくないかというお話
 もございましてたのですがそれは一般土木その
 他の工事によりまして行いたいということ
 ござり承わがいましてこの議案は通つたので
 ございます。その後利どもつ上げましてた都
 市計画税は三十一年度の決算は三百四十四万
 四千七百三十三円の都市計画税があつてお
 ります。この比率は旧市制が六中%農村方面
 が三六%の課税負担になつております。昭和
 三十一年度の都市計画税設置以前の土不費から
 勘案いたしますというところと新年度予算は三、
 七倍の費用を要してあります。いずれにいた

——ま——ても現在の市内の状況が一日もゆるが
せにできないような状態になつておりますその
で某甲いた——ま——て仕事をして関係上郡部の
方には手が回らないという現情でございます。
それによりま——て一般土木費にあま——ては
三百万以上の金が郡部の方へ回つております。
そういう関係上なおこんど都市計画事業を
進めていきたいためにこの税の廃止の意思は
ないと思ひます。以上でございます。(了解——ま
——と呼ぶ者あり)

三。番(磯辺周雄君)道路占用料でちよつとお尋ね
たいんですが予算額は十二万円であります。
本年度実際にどのくらい入つておりますか
その数字をお知らせたいと思ひます。

次に条例によりますと電気がス水道等の地下埋設物に對しても賦課徴収できるようでありますがそれらに對して徴収してあるかおうないか、もし徴収していないといたならばその理由をお聞せねがいたいと思います。
。建設課長(新井重助君)お答えいたします。

道路占用料でございしますが当市におきまして道路占用の個所が非常に少ないのでございまして年間五万円でございます。あと電灯会社がスその他についての道路占用がございしますが電気の方につきましては各市が全部とつておるといふわけではなくて一応東京電力会社と交渉中でございします。これは私どもが道路を全部調べてあげればよろし

いんですが先ほど申し上げましたように街灯の
方もまだ完了いたしませんので順次調べて行
きたい。その前に東電に打合せして占用して
いる箇所の本数をこちらで知らせてくれるよ
う甲入れてありますがいまだになんら回答
がないのでこんご十分督促いたしまして道
路占用使用料をとりたいと思っております。
がスの方でございましてこれも一応公共性
賃を含んでおりましてこの料金をとるか
とらないかということはこの研究に任せ
ていただきたいとかように考えております。

三。番(磯辺周雄君)電灯会社の方へ甲入れて電
柱の数を知らせてほしいというふうな要求し
てあるようですが市当局として市自体がこれ

を調査する考えがありますか、どうか、その点をお尋ねいたします。

建設課長(新井重助君)お答えいたします。

市道と市有地その他に立っておりますのを全部調べるというのは非常に難儀(おぼつか)でございます。まして市道の現情から行きますと、約四百キロでございます。それをいち／＼調べて歩くということも難儀でございますので、相当の経費も要します。関係上電力会社の方から調べてもらった方が早いと考えまして調査方を依頼してございます。

三。番(磯辺周雄君)市の方で調査していただけるかと思ひます。要望してあります。

六。番(秋山万次君)山口課長さんにお尋ねいたします。

三十二年 度 今年度の土地の評価格の種目別の総額をお知らせいたします

。税務第一課長(石井 潔君)お答え申上げます。

田から申上げます。田は指示額と比較して、場合に若干上が、てお、たのでござい、ますが、大抵据置、ま、り、ま、した。畑は八分九厘、宅地が六分九厘、山林が六分、原野が一分、雑種地は二分九厘、以上でござい、ます。

。八番(佐久間為次郎君)大分慎重に、ご審議あ、た、ように思われ、ます、ので、この辺に、して、又、出、入、の、質疑、を、打、切、り、ま、し、て、又、だ、ち、に、予、算、審、査、特、別、委員、会、の、設置、あ、ら、ん、こ、と、を、望、み、ま、す。(「特別会計」と呼ぶ者あり)

。三番(伊勢仙之助君)ここで審議打切りにせられると

困ります。今年度の總体的の予算をみますと
 現年度の見込みと本年度の予算のバランスを
 みますと計画を残してから市長が勝手に便
 うんだという金ではありません——議會を通
 して使うんであります。がうは、まうりていれ
 ばいいんですがやはり当初の予算の組み方か
 らいえます。と当然追加予算ということが予
 想されるんですが、そういう財源をどこから持
 ってくるかという点について先のこととは現像が
 つきませんといわれ、ば仕方がないんですが、私
 たちとしては市税、地方交付税、国庫支出金そ
 の他雑収入という面からおそらくでるんいや
 ないかと思うんですが、大体の目標でい、んです
 が、こんどにおける追加財源は何の費目から一応お

求めになるご予定でありますか——そうですね
ことがは、まり予想されて——たうこと——は三
億近い予算になろうと思ひますが二億五千九百
万程度では当然四千万円の追加予算といふもの
が予想されるんですが財源を何に求めるかとい
ふ点についてひとつ伺ひたいのであります。

税の客体の問題であります。が電気がス税、電氣
の方につきましては実際に徴収方法が話合ひに
なつてその都市／＼の税収入にかゝわらず分
配制で分けるというふうになつてゐるんです
がガスにばつ消費税、入湯税、こういうものは申告
制度であやりになつておりますが、それともこ
ちらから各公社なり会社に出向いて実際の年間
の収入というものをよく調べてその上で、もつて

さういふ客体を止めて行くかどうか、さうい
う点についてお尋ねしたいんですが、ガス料金
などについてみましても前年より減つてゐる
ということになつておりますが果して適正な
客体であるかどうかという点についてどうい
ふに措置されておりますかこの点をお聞
きしたいと思ひます。

なお入湯税については五百人分とありますが
大体一日一人とちがつてゐるんですがさういふ入
湯税のとり方で果してそのうちの経営とい
ふものが成立つていきますかどうか、客体を
つかふ根拠さういふものについてもお伺い
したいと思ひます。大体社の償還する範囲は
この程度でございます。

○市長(田村利男君)来年度におきまする追加予算
の財源というものは、質問にお答え申し上げます
すが、あくまで来年度のことはわかりませんが
もしとれるとすればこの八百四十六万円とい
うものが予定されますので、そのうち三百万円
がすでに予算にうたってありまして、これが充
てられるとすれば五百四十六万円というものが
追加予算の財源に充てれば充てられる、こう
いうわけでございます。なおそのほかの質問
に対しては、各課長に答弁いたさせていただきます。
○三番(伊勢仙之助君)五百万円とおっしゃられるん
ですが、三十二年度の決定見込み額とこんどの予算
とのバランスということをお考えますとやはり五百
万程度よりも、とそれ以上の額がここに充てられ

るんですが、そういう莫かうい、て五百万程度で追加予算を組むんだという考え方は私にも、と大きな問題で三千万とか四千万とかいう前年度において行、た程度の大きな追加財源というものをどういうふうにお求めになるかというものの莫なんでございしますが、ま、りーないとあーやればそれまでなんです。が、そういう莫について見通しというものがつけられるならば、ご説明ねがいたいと重ねてご質問いたします。

。助役（出）武男君）こんごの追加財源でございします。が、これは一応お手許に差上げまーたのはあくまでも見込みでございまして、私どもとしてはこれ以上に入るように努力する義務があるわけではございまして、これら財源は一時

に追加ーませんでそのつどいわゆる入、た金と
拾い集めて戦源に充當ーたいというのが行き
方でございますのであくまでそういうふうな
考え方で適時皆さんので協賛を得て追加ーたい
。三番(伊勢仙之助君)それ以外に回答できないとあー
やうれ、ば止むを得ないんですが別に市庁舎
とことーやるんで一千万円か二千万円くらいのも
のは多少くんでおかないと具合がわるいというよ
うな考え方があるんじゃないかというような
こともちょっと想像されますんでそういうこ
ともなくて現在の通り成行まに任かせて四
千万五千万の戦源をお便いになるという考え
方以外にいないと私の方で解釈ーまーて納
得はいえーませんがそういうご答弁をよく承知

しておきます。

。税務第一課長（山口 実君）伊勢議員のたばこ消費税が
入税入湯税の課税客体把握についてのご質問
にお答え申し上げます。

たばこ消費税につきましてはこれは公社の申
告によりまして納付してありまして別段帳
造の調査とかそういうことにはただいま参
っていませんですがいちじるしく少ない場合など
は電話でもってどういう状況か聞きますが小
売が少なかつたとかそういう回答でございます。
次に電気が入税でございしますがこれは送電の
電気量を調査するため基下に委員会とい
うものをつくりまして配分委員会を組織し
ましてこの委員会の方によりまして適正な

る配分あるいは課税そういうことをこんごや
って行こうと思ひます。ただいまこの委員会
がこの件につきまして研究甲でございます。
次に入湯税でございしますがこの対象は館山
温泉一軒でございましてただいまの収入状況
をみますと二月末日で約一万七千二百円収入の
状況でございまして営業不振のためにお客も
少ない入湯税を過大見積ることとを考慮いた
しまして昨年より減額いたしましてたんです
がこの件につきまして努めて保ちとまるとき
館山温泉に向けまして状況を調査して客体
把握に万全を期しております。以上であります。

議長(石井 梨君) へ入に對してご質疑ございせんか。

(議事進行と呼ぶ者あり)

議長(石井 衆君) これをもつて文入に対するご質疑を打切りたいと思ひますが、ご異議ございせんか。

(異議 衆議「ん」と呼ぶ者あり)

議長(石井 衆君) ご異議なると認められず、よつて文入の質疑を打切ります。

議長(石井 衆君) ついで議案オ二十一号およびオ二十二号一括質疑をいたします。

三番(山本 昇君) 議案オ二十三号につきまして、三お尋ねいたしたいと思ひます。

百六十九ページ国民健康保険の保険料が二千百万余になつております。これに対して、まして国庫の補助金が九百万ばかりでありますか、健康保険の運営の妙といひますか、運営の

面が悪いというと言へいがあるかも知れませんがとにかくうまくいっていない。滞納が多いというようなことで一般予算の方から昭和三十三年度においては百万を更に追加した。来年度においても相当一般の財源から入れなくちゃいけないというようなことが一応考えられますが今回また保険料の値上げというようなことも考えられておりますがこの点につきましても私ども納得が行かない。保険の運営の面において足りないから一般財源から繰入れ、ばいいんだとあるいは足りないから保険を上げるんだというようになるとさいて満足してるといふことは政治施策としてはたいていいかどうかということも

考えられるんであります。そこで私はこの点
 お尋ねいたしたいのは要するにこうしたいこと
 は社会制度の上から結構なことであります。一
 般に普及されて利用されることは結構で
 あります。単に運送上まづいかう料金を
 上げるんだということではなくてもう少
 国庫の支出という面において考えられないか。
 この点につきまして先ほど市長会とかい
 ろあ、て大きな問題につきまして政府に申
 入れておると話があります。たがなんうか国民
 健康保険の運営の面につきまして国庫の補
 助が余計得られるようなことかできないか。
 過去においてこのことについてどのよう
 に折衝されてお、たかそれに対してまして国家

としてどのように考えておるのか。地方財政は増々ひ、迫する、一か一ながら甲斐の財政がきわめて繁であつて剰余金もたくさんでておるといふようなこともいわれており、ただひとり地方自治体が財政の窮乏できゅうくとしておる。そこを保持してきて保険で市民に多くの負担をかけるということが、^{地方自治}地方自治としてあるべきやいけないと思ひます。そこでこの問題につきまして、ぜひとも国家に對しまして強力に働きかけて、國庫の補助というものをさらに余計獲得すること、が私は、ともいいのじゃないかと思ひます。がこれにつきまして過去においてどのようなことで折衝されておりますか、現在どう

いう状態になつてあるか、この点のとつてお知らせがたいと思ひます。

。保険課長(唐又貞太郎君)健康保険の経営が悪いというご指摘もあつたのでございます。私としましては一応全力を注いでやつてゐるつもりでございます。

なお国庫の補助金の問題でございますがご承知の通り補助金は年々上がつておるのでございますが、實際法文に書いてある通り療養給付費の二割ということとを政府は叫んでおるにもかゝらず、實際は二割を占めていないのであります。これは国の予算内において二割を占めるのだということにおいて、現実問題として二割の八〇パーセントにないのが

現情でございます。われ／＼と――ても
十月でも多く国庫補助^金をもらうためにわ
れ／＼一丸となりまして県の国保連合会
に強力に打出しまして県の連合会は国の中
央会に要望――国の中央会は市長村長の会
よびいろ／＼厚生省に折衝――た結果新聞で
もご覧の通りに一応多少は補助金が上がった
のでございしますが十月からというふうになり
ましてまだ詳細は私の方には流れてきてお
りません。その上がった経過を申しますと
現在事務費は八十五月の割で計算されて
あるのでございしますがそれを百十五月へ
てもううということも要望――た結果厚生省
と入蔵省との折衝の結果九十五月に落着い

たのでございます。療養給付費の二割をもううということを始めから要望しておいたのでございそうですが、実際には二割まであります。のでこんどは三割ということをや打せしめた結果、二割の療養給付費補助金に五%の調整交付金という名のもとに総計二十五%になる。のでございしますが、その五%が果してくるのか、こないのか、ぱりわかりませんが、一応原情の結果、大体補助金は以上のような結果になっておるのでございます。以上説明を終わります。

議長(石井 衆君)ーばうく休憩いたします。

午後五時四十七分休憩

午後五時五十分開議

議長(石井 翠君)休憩前に引続いて会議を開きます。
議長(石井 翠君)時間が定刻にひ、迫いたります。
たんですがこのまゝ、時間を延長して審議を
続行いたらいと思ひます。が、異議ございま
せんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

議長(石井 翠君)ご異議なしと認めます。

よゝて時間は延長することに決定いたしました。

○四番(山本 昇君)ただいま国民健康保険の問題につま
まりて担当課長のご説明によつていろいろ中々
との折衝その他において努力されておるといふ
ことはわかります。こんどなおさうしたたんに
料金を値上げて事をすすとか一般会計の流
用によつてというやうな安易な気持でなくでま

るだけそういう線を強く打出して困難性があるうと思ひますが、努力をおねがいいたします。それにつぎましてこの予算をみますと、国庫天出金の面で前年度の予算より八十一万一千九百円ばかりの増加があります。この増収は要するに昭和三十一年度の実績からみて、この一たんものはただいま担当課長さんの話でいろいろ折衝した結果、いく分補助金の面が多くなつたのか、その裏をいひとつ教えていただきたいと思ひます。

保健課長（唐沢貞太郎君）療養給付費の増額に伴ひましてその算出に従つての増額でございます。なおつけ加えますが、改正後のものにつぎましては十月からでございますので、また最終的

な文書も流れておりません。算出方法も多
分違うようになると思うのでそれにつま
してはここには見込んでございせん（「了承」と
呼ぶ者あり）

○七番（嶋貫壮作君）豊彦診療所の問題についてお尋
ねいたします。

豊彦診療所運営委員会があつたとき、その
席上で拡張問題が起つたときがあります。
その時にいろいろ問題が出たのであります。
が市長さんはすばらしい構想をもつているか
うその構想をおつて予算に紹介するからと
いう約束をなさつたことがありますが、豊彦
診療所の施設をみておりまうと、これはド
めて九十五万か八万かの機械を買つたという

ことだけのように私は考えているのであります。別にすばうーい構想にお目にかゝりたいわけではありませんがもし市長さんが将来すばうーい構想をお持ちだ、たらこの機会にご紹介をさせていただきます。それから国民保険の未納の人えもその何を払ってあるか、どうか、その点についてお伺いします。

市長田村利男君すばうーいというような表現が当たっているかどうか知りませんが私の考えといたうーうーては皆さうで協議によりさうて豊床出張所を廃止するということはおカニといふうーうーて豊床出張所の大部分を病院診療所の外系にあてさうて出張所の廃止がでさなければその一部を出張所にあてるといふことでござ

いまーてこんどの三百ミリメートルゲンも豊房
出張所内でなければ現在の診療所内では設
備をする部屋がせますぎますのであるいは
購入した機械は出張へ暗室を作つて入れる
予定になつております。従いまーてこんど
千前甲の外来者療診療レントゲンという
ようなものは豊房出張所を主体といたものに
三十三年度中に実行に移りたいとまういう考
えで週日果の衛生部長とも相談いたしまいた
ところ出張所と診療所との間が五十メートル
以上は離れているけれども鎌山の場合入浴者
を現診療所外来者療者を現出張所に同時に
併設してよろしいという言葉を得て参りま
した。そういうわけでございますので近く出張

所の建物と病院の方へ使うというので協議をいた
せまして豊房診療所の改善に努めたいと
こういうふうにかえてる次でございます。

○保険課長(唐沢貞太郎君)お答え申し上げます。

未納の人にもおつてゐるということは未納の
人にも給付してゐるというふうに解釈して
よろしいでしょうか。(未納の人の分も同じよ
うに給付してゐるかどうかと呼ぶ者あり)
未納既納を問わず給付につきましては全般
的に給付してあります。

○七番(嶋貫作君)それはわからないからどうなる
のですか、それとも未納であるということか
わつていても給付してゐるのでありますか。

○保険課長(唐沢貞太郎君)未納になつておつても

給付する権利についてはとめられないといふ通牒がございますのでそれに従いついて例え未納であっても、わかっているても療養給付は便わせております。

一七番(嶋貫壮作君)まあ規則はそうなっているといふことはわかっているんですがその給付するときに未納者へ一応話をなされて給付しておりますか。

保険課長(唐沢貞太郎君)給付のつどくには未納者につきまゝでは話をしてございせん。

一七番(嶋貫壮作君)それでは第納の整理とかうんでおすかーい問題になリヤーないかと考えますけどだいたい患者がいくらか払、たということとでえわからないんじゃないですか。例えは私が病

院へ行くとして半額を支払うその半額を支払った額をえわからないन्द्रやないですか。
 保険課長(唐沢貞太郎君)私の方ではわかるのですが
 患者本人につまりましては当然これはわかること
 と、思うんですが忘失等のような場合がござ
 いますので。

市長(田村利男君)いろいろ議論があるようござ
 います。が事実未納者が病院の窓口で半額払
 う、その日は市役所へはわからないと思うわ
 けでございます。よーんばわか、ても未納
 者だからお前はなぜを引いても医者にか、
 るのはよせというような感じを受けとら
 れやすいのでそのつど、病気になる、其時
 未納者に直接催促するということも一応考

えうれますが病気が治ったとかその時は知らせる。そういうふうにはやらせてあります。

〇一七番鳩貫社作君それも結構ですが一応話を一
てや、氏がが親切でもありました。滞納を防止す
る上に役立つと思います。それから私が氏に
たび申し上げるのであります。が医者の方へ患
者がいく、うまね、氏ということを確める方
法をおとりなさい。こういっているのに対し
て医者の立場を記することができないからとい
う理由でもって避けておいでになります
すが私は医者の立場を記さなくてでさるの
であります。それをやらなければ患者とい
うものは私の家にもてもそうです。診療券
は便なかつたけれども――診療券は

まてゐるんだから半額で済むんなら、もうと
 いういうことになるんであります。そうすれ
 ば月と、年に患者がふえ、患者数は増加しまし
 い金額はふえるということになりますんでそ
 ういう事をささく、かく気を使つてやつてい
 たら、だくことばいいと思ひます。が、そうす
 るとあな方は、手がないうと、お、やるか、も
 知れませんが、そういうこととをやるために
 人なり手なり必要なら、増加しても差支え
 ないと、私は考へております。すが、この
 事について、のご意見を伺ひます。

○保険課長(唐沢貞太郎君) 三十三年度より
 は全部にわたつての通知ということも、現
 在では不可能でございまして、のできる
 だけ抽出によりまして、そういうことを
 やりたいというふうに考へてゐる。

です。

二七番(鳴貫壮作君)せいや、ていたいただきます。私の例
をとりますと私の妻が具合が悪くなつて
半年医者にかゝておりますがまだ一回も
そういう調査にいかないといふよう
なわけでそういうところからいふところか
と思います。それで医者からくる請求に對
してどん／＼支払、たんではなか／＼国民
保険というものを何／＼するゆえんにはなる
まいと考えております。そういう手続とな
り方法をおとりになつていかもなにかつふ
えるものはふえるで仕方がありません。けれど
も盡すべき手は盡して保険料をどん／＼上げ
るといふようなことは私は考慮していただ

かなければならない点だと考えております。
 ○三番望月輝作君 国民健康保険のことでございますが百七十七パーセント協力組合助成金として十四万計上してあります。が協力組合というのはいくつあるか。そしてこの助成金というふうな範囲によつて出ておるか。それとお伺いします。

なおこういふふうな協力団体の増加をはかつて努力しているかどうか。それをお伺いします。次に公益質屋の件でございますが、年次償還されるように考えておりますが、現在の公益質屋財源はどの位になつておるか。それをお伺いします。

○保険課長(唐沢貞太郎君) オー、是につきましてお答え

申上げます。

現在の国保協同組合の結成状況は町内会とか婦人会種々加えまして百五十九でござい
ます。加入世帯は五千二百十人でござい
ます。保険料の助成金でございしますが納期のつ
どまたは年に二回等にわたりまして私の方
からそのつども、て行、ております。なお保
険料の助成金につきましては一戸につき二十
円、完成助成金につきましては百分の四でござい
ます。

○厚生課長(神作啓次郎君) 答えいたします。

元金二百万円を保管いたしまして一ヶ月据置き
で一ヶ月間大体昨年は据置きいたしまして
こところから大体元金が五十九万九千八百九十

月、これに対する利子でありまして十七万六千円算出する予定でございます。

議長(石井 梁君) 他にど質疑ございませぬか。

○八番(佐久間為次郎君) 議事進行について。

ただいま議題となり、てあります。議案第二十

号ないし二十二号の予算案に關する審議は

なお多数のご質疑もあらうと思ひます。が

一応この辺で打切、ていたでございまして、

詳細の内容を審査の必要があり、ますので

予算審査特別委員会を設置されまして

これに一任付託されまして、ご審議をお願い

いたします。なお特別委員会の人数は従

来の例によりまして十四名くらいで構成し

て、その選任は先例によりまして議長の一任

としたいと思ひます。お諮りなほいます。

一七番(嶋貫杜作君)ただいま予算審査特別委員
会設置の申出があります。たが私はこう考え
ます。各委員会があります。別に自分の意
見を固執するわけではありません。せんけれども
この機会において各種の委員会へかけて審
査していただくことも提案いたします。

二三番(福岡保徳君)十八番議員の発言の通りに予
算審査特別委員会を設けてやることに賛成
いたします。そして十七番議員の真意を入れ
て選出さ議長にしているでやっています。た
がたいと思ひます。

二一番(萩生田七郎君)二十三番議員に同調します。
議長(石井 梁君)十八番議員ご提出の動議は賛

成の議員が他におありになりまして成るまい
た—ました。

○議長(石井 衆君)ただいま十八番議員君のご提出の
動議は議案オ—十号ない—二十二号の質疑はこの
辺で打ち切りと—たのでちと予算審査特別委
員会を設置—これに詳細審査をするよう
付議する なお委員の数は十四名と—送任
の方法は議長一任ということでありましてが
この点お諾りいた—ます。これにご異議ござ
い—せんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 衆君)ご異議なしと認めます。
よ、てその通り決—ました。

○議長(石井 衆君)—ばうく休憩—ます。

午後六時十五分休憩
午後六時二十分開議

議長(石井 梁君)休憩前に引続いて会議を申します。
議長(石井 梁君)予算審査特別委員会の委員を申
上げます。

その前にただいまの動議のご趣旨を尊重いたし
まして過去二年やうない議員が十一名いられ
るなか、う多く出ていたでございましてその他の
議員をや、ただ方の中から入、ていたでござい
ます。なおそれにつきまして総務委員会文教委員
会経済委員会建設委員会この委員の中か
ら^按配をいたし、まして割振りをしていたつも
りでございます。その実、了承をお願いします。

二番議員 高橋文右君 三番議員 伊勢仙之助君
 四番議員 小坂光義君 五番議員 後藤ゆき君
 八番議員 金本久一君 十三番議員 小沢太助君
 一四番議員 中村良五君 一六番議員 田村喜兵衛君
 一八番議員 佐久間為次郎君 二〇番議員 山口房右君
 二二番議員 小沢恵太郎君 二六番議員 可世木芳蔵君
 三三番議員 田中忠蔵君 三四番議員 飯田義男君
 以上十四名 予算審査特別委員会 委員に選
 任いたします。ご異議ございませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

議長(石井深君) ご異議なしと認めます。

よって決定されました。

議長(石井深君) 重ねてお諮りいたします。

九石いよ決定となりまして 予算審査特別委

委員会に議案オ二十号ないー二十一号を一括付託ー
次回、三月二十四日の本会議までに審査さすー
その結果の報告を求めらるうにいたりますすに
ご異議ございせんか。

(異議ナーと呼ぶ者あり)

議長(石井 梨君)ご異議ナーと認めます。

よって決定されました。

議長(石井 梨君)来日の会議はこれよりと散会
といたすー次回は三月二十四日午後二時開会と
いたします。

その議事は議案オ二十号ないー二十一号予
算案に係る委員長報告、討論採決とい
たります。

千後文時二十三分散全

